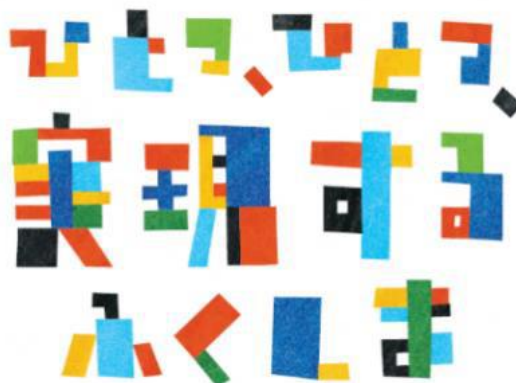


福島県文化振興基本計画 の進行管理について

育み、つなぎ、創造していく「ふくしまの文化」
～人と地域が元気にあふれ、心豊かなふくしまへ～



福島県文化振興基本計画の施策体系

基本目標

育み、つなぎ、創造していく「ふくしまの文化」
～人と地域が元気にあふれ、心豊かなふくしまへ～

施策展開の視点

◆ 県民一人一人が文化の担い手

◆ 多様で特色ある地域資源・文化施設をいかす

◆ 文化振興を地域の活性化にいかす

施策体系

1 県民の文化活動の促進	2 芸術の鑑賞 その他文化に接する 機会の拡充	3 青少年の文化活動の 促進	4 伝統文化の継承及び 発展	5 生活文化の充実	6 文化活動を行う拠点の 機能の充実	7 文化の交流の推進	8 文化振興による地域 づくり
条例第7条 第2項第2号	条例第7条 第2項第3号	条例第7条 第2項第7号	条例第7条 第2項第4号	条例第7条 第2項第5号	条例第7条 第2項第8号	条例第7条 第2項第6号	条例第7条 第2項第9号
(1)文化意識の醸成	優れた文化芸術に親しむ機会の充実	(1)鑑賞機会等の充実	(1)伝統文化の継承と発展	(1)食文化の継承と振興	文化施設の機能の充実・連携の促進	(1)文化の発信と交流の充実	文化資源をいかした産業等の振興・地域づくり
(2)文化の振興を担う人材の育成・確保		(2)学校教育等における文化活動の促進	(2)文化財の保存と活用	(2)生活文化等の振興		(2)東日本大震災・原子力災害からの復興と教訓の発信	
(3)文化活動への支援の充実							

デジタル技術の活用の促進

デジタル技術を活用した創作活動の促進、活動成果の発表・鑑賞機会の充実、記録・映像の保存の充実、交流の促進 など

SDGsの理念（誰一人取り残さない、多様性と包摂性のある持続可能な社会）の反映
性別や年齢、障がい等に関わりなく文化活動に取り組める環境づくり、多様な価値観の尊重、文化遺産の保護・保全 など

推進施策1 県民の文化活動の促進

県民の文化活動が促進されるよう各種施策に取り組みます。

- (1) 文化意識の醸成
- (2) 文化の振興を担う人材の育成・確保
- (3) 文化活動への支援の充実

令和5年度の主な取組

○ 第77回福島県総合美術展覧会（文化振興課）【15,770千円】

県内在住者及び県出身者から美術作品を公募し、一般に展覧することにより、本県美術の振興を図るとともに、優れた美術作品の鑑賞機会の拡充を図っています。

- 開催時期：令和5年6月23日(金)～7月2日(日)
- 開催場所：とうほう・みんなの文化センター
- 展示状況等：公募出品数675点【うち青少年209点】、招待等出品数161点、陳列作品数672点（内訳：日本画65、洋画304、彫刻40、工芸美術59、書194）
- 入場者数6,821人
- 美術奨励賞以上の入賞作品31点を県公式YouTubeにおいて公開
- 出張展を2箇所で開催（会津若松市、相馬市）

○ 第76回福島県文学賞（文化振興課）【4,051千円】

県内在住者及び県出身の学生・生徒から文学作品を公募し、成果発表の場を提供するとともに、優秀作品を顕彰することにより本県文学の振興と地域文化の進展を図っています。

- 募集期間：令和5年7月1日～7月31日（令和4年度から電子データでの受付開始）
- 部門：小説・ドラマ、エッセー・ノンフィクション、詩、短歌、俳句の5部門
- 応募状況：応募総数222点【うち青少年37点】
（内訳：小説・ドラマ49、エッセー・ノンフィクション36、詩36、短歌41、俳句60）
- 顕彰：令和5年11月3日（金・祝）に各部門の正賞、準賞等の入賞者を表彰
- 県文学賞講演会：県高等学校文化連盟と共同で開催。
講師：逢坂 冬馬氏（小説家） 参加者：約100名
- 県文学集 入賞作品を掲載した県文学集を令和6年3月に発行予定

○ アートによる新生ふくしま交流事業（文化振興課）【18,402千円】

被災地の住民がアートの創作を通して地域での絆や誇りを深める取組を行うとともに、福島の未来を担う子どもたちがアート創作の機会を通して心豊かに成長する取組を実施するほか、制作した作品の展示を行っています。

● アートで広げるみんなの元気プロジェクト

- 芸術活動を通して被災地の地域コミュニティの支援やこころの復興を図る取組
- 8プログラムのワークショップを延べ19日開催（予定含む）、参加者数299名（12月末現在）

- ワークショップの参加アーティスト及びプログラム名
 - ◆ 鈴木美佐子氏（織物・染織作家）：藍染めのオリジナルデザイン
 - ◆ 小原風子氏（絵本作家）：①小さな葉っぱのお手紙カード、②ころころさんをつくろう！
 - ◆ 中村ころもち氏（イラストレーター）：①ポストカードをつくろう！、②相双のかたち・私たちのかたち
 - ◆ 黒沼令氏（芸術家・彫刻家）：思い出の形を鋳造しよう
 - ◆ 山崎エリナ氏（写真家）：まちと私の小さな写真旅
 - ◆ はかたてつや氏（イラストレーター）：富岡町にぎわいダンス・アニメーション

● アートで広げる子どもの未来プロジェクト

- 子どもたちに学校では体験できない創作の機会を提供する取組
- 9プログラムのワークショップを延べ38日開催（予定含む）、参加者数637名（12月末現在）
- ワークショップの参加アーティスト及びプログラム名
 - ◆ FRIDAY SCREEN（アートユニット）：凸凹文字
 - ◆ よしもとみか氏（画家）：私の「いま」を色と形で表現してみよう。
 - ◆ 喜多方市文化課（学芸員）：くるくるとんとん会津型
 - ◆ 平山素子氏（コンテンポラリーダンサー）：感じるリズム、見つけるカラダ
 - ◆ 岩田とも子氏（アーティスト）：ブナの森の葉っぱ日記
 - ◆ 渡邊晃一氏（福島大学教授・芸術家）：＜ほんとの空＞に飛ぶイメージ
 - ◆ 松井素子氏（いわき短期大学准教授）：つくって楽しく考えるSDGs
 - ◆ 廖 曦彤（山形大学講師）：ふしぎな生き物図鑑!!一流木を見立ててー
 - ◆ 手塚千尋氏（明治学院大学准教授）：カラフル・コミュニケーション 2023ーわたし／わたしたちの色、ふくしまの色ー

○県民カレッジ推進事業（生涯学習課）【予算なし】

県民の多様な学習ニーズや学習活動の広域化に対応していくため、県・市町村・大学等高等教育機関、民間教育機関等が連携・協力し、県民が主体的、継続的に学習活動に取り組めるよう、生涯学習に関する情報や学習機会を提供しています。

- 県民カレッジ連携講座（受講生の対象地域を1市町村に限定しないで、他市町村の住民も参加できる講座）を県HPや「県民カレッジ情報ボックス」（ヨークベニマル等）にて情報提供しました。

○生涯学習情報システム構築事業（生涯学習課）【2,527千円】

生涯学習講座等に関する市町村の情報を集約できるプラットフォームを構築することで、講座企画担当者を支援するとともに、講座受講者の講座情報の取得や時間・場所を問わない学習を可能とするなど、生涯にわたり学び続ける環境づくりを進めています。

- 福島県生涯学習情報システムを構築し、県内の生涯学習関連情報を提供しました（令和6年1月16日現在）。
 - ◆ アカウント付与数：市町村303、県95、民間教育施設・高等教育機関・民間企業33
 - ◆ 登録団体数：市町村59、県16、民間教育施設・高等教育機関・民間企業24
 - ◆ 講座・イベント登録数：4329（非公開 1178 公開 3151）
 - ◆ 動画登録数：141（庁内）
 - ◆ 施設登録数：447（非公開 5 公開442）
 - ◆ 講師情報：276（非公開 8 公開 268）

○ 第62回福島県芸術祭（文化振興課）【1,000千円】

県民による文化の公演発表等の促進、県民への芸術鑑賞機会の提供及び芸術文化団体等の活動促進を目的として開催し、もって本県における芸術文化の振興を図っています。

- 主催行事：31件、参加行事：84件
- 開幕式典・開幕行事：令和5年9月3日（日）會津風雅堂 入場者数約800名

○ 東京2020オリンピック・パラリンピックレガシー事業（スポーツ課）【82,014千円】

復興五輪として開催された東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーを継承するため、ボランティア活動の継続のための支援や競技団体と連携した大規模大会の誘致等に取り組むことにより、スポーツによる交流人口の拡大や情報発信の充実等を図り、本県の復興の加速化につなげています。

- あづま球場における大規模大会の開催
R4年度…4件（女子野球GIANTS杯、日米対抗ソフトボール2023、JDリーグ、古関裕而氏野球殿堂入り記念全早慶野球戦福島大会）
- アスリートとの交流事業への参加人数 R5年度…499人（12月末時点）
- 都市ボランティア活動等への参加人数 R5年度…132人（12月末時点）”

○ 助成事業（公益財団法人福島県文化振興財団）【財団予算】

県民の文化活動が自主的に活発に推進されるよう、個人または文化団体等の活動を援助・奨励し、本県文化の普及、向上、保存を図っています。

- 文化団体等の事業56件への助成を内定。

○ 福島県文化功労賞表彰（文化振興課）【1,537千円】

本県の文化の振興・発展を図るため、多年にわたり本県文化の向上に著しい業績を表現した個人を表彰しています。

- 芸術（美術） 佐藤幹氏（会津美里町 会津本郷焼伝統工芸士会会長）
- 科学（自然科学） 中村玄正氏（郡山市 元福島県環境審議会会長）

○ **顕彰事業（公益財団法人福島県文化振興財団）【財団予算】**

県民の文化活動が自主的に活発に推進されるよう、文化活動に関し優れた成果を収め、本県文化の普及、向上、保存及び伝承に貢献した個人または文化団体等を表彰しています。

- 個人3名、1団体を表彰

令和6年度の主な取組予定

- 第78回福島県総合美術展覧会（文化振興課）【15,770千円】
- 第77回福島県文学賞（文化振興課）【4,051千円】
- アートによる新生ふくしま交流事業（文化振興課）【18,490千円】
- 県民カレッジ推進事業（生涯学習課）【予算なし】
- 生涯学習推進市町村支援事業（生涯学習課）【981千円】
- 第63回福島県芸術祭（文化振興課）【1,000千円】
- 東京2020オリンピック・パラリンピックレガシー事業（スポーツ課）【17,819千円】
- 助成事業（公益財団法人福島県文化振興財団）
- 福島県文化功労賞表彰（文化振興課）【1,644千円】
- 顕彰事業（公益財団法人福島県文化振興財団）

指標から見た施策の進捗状況

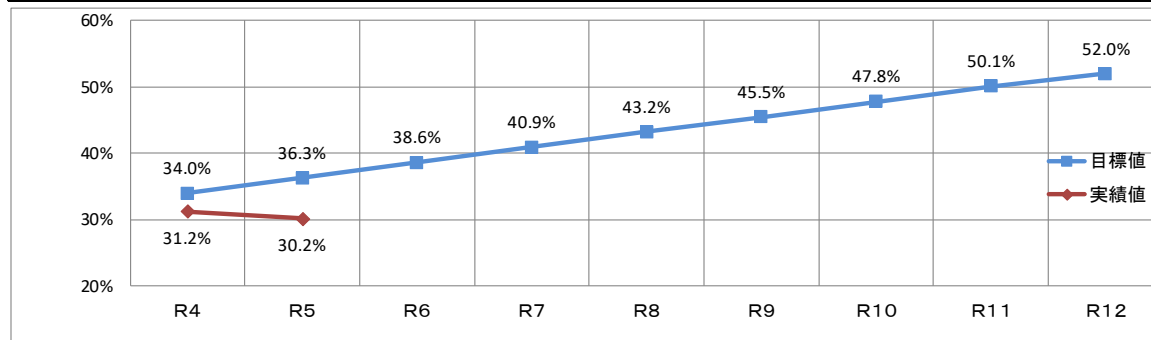
【指標の評価方法】 A:100%以上 B:99~80% C:79~70% D:69%以下

No.1 文化活動やスポーツ活動に積極的に参加していると回答した県民の割合(鑑賞を含む)【目標値:52.0%以上(令和12年度)】

評価
B

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	34.0%	36.3%	38.6%	40.9%	43.2%	45.5%	47.8%	50.1%	52.0%
実績値	31.2%	30.2%							



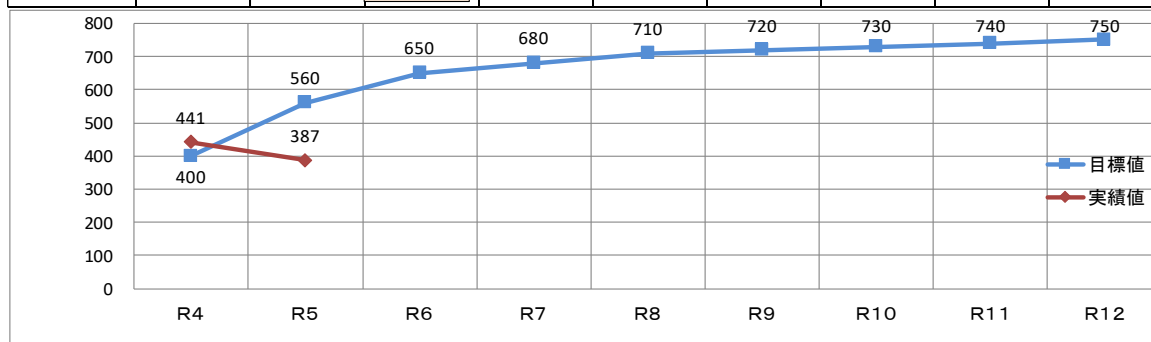
達成見込	<ul style="list-style-type: none"> ・有観客での各種イベント等が再開されるなど、鑑賞や参加する機会が徐々に増えてきている。県総合美術展覧会における入選作品のウェブ展示や県文学賞における電子データでの作品応募受付など、デジタル技術を活用した文化活動に触れ親しむ機会の拡大に取り組んできている。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル技術の活用による文化の鑑賞機会、活動機会の拡充に継続して取り組み、あらゆる県民が身近に文化に触れ親しむことができる環境づくりを進めていく。 ・市町村や各ホールと連携し、県民の主体的な文化活動につながるワークショップや出前講座など住民参加・体験型事業の拡充に努めていく。 ・次代の文化の担い手となる青少年の文化活動を促進し、生涯にわたり文化に高い関心を持つ環境づくりを進めていく。

No.2 市町村生涯学習講座受講者数(人口千人当たり)【目標値:750人(令和12年度)】

評価
—

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	400	560	650	680	710	720	730	740	750
実績値	441	387	12月末時点						



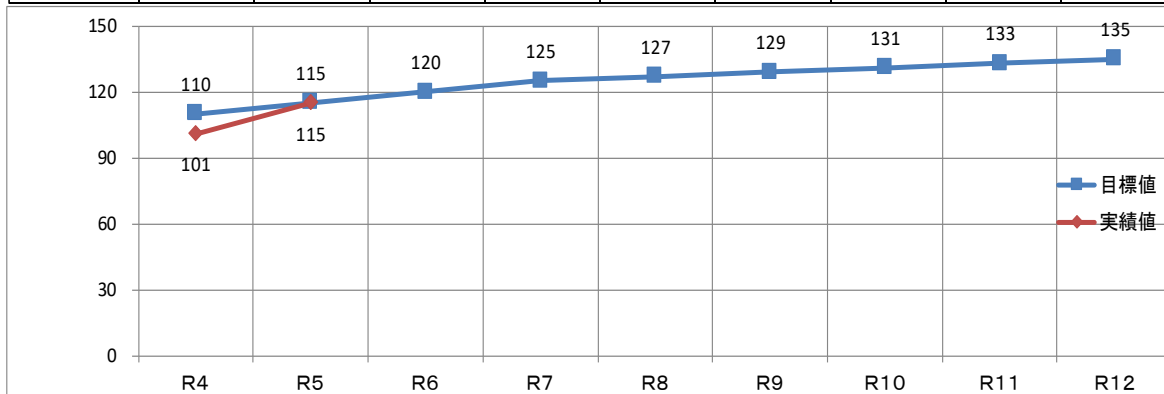
令和3年度と令和4年度の比較	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は、感染症予防対策が一般に定着したことから従来の方法で講座やイベントを開催する市町村が増加し受講者数が目標値を上回った。 ・令和5年度は、前年を上回る見込みだが、市町村の講座企画の新規性が進まないこと、学びの多様性の進展から参加者がコロナ禍前の水準には届いていない。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、市町村等の協力を得て、12月より運用を開始した生涯学習情報提供サイト～ふくしまマナビ～の講座・イベントの情報がタイムリーに更新されるよう、市町村を始め登録団体へ情報更新を呼びかけるとともに、適時更新状況を確認する。 ・ふくしまマナビを利用する方々からの声や講座参加者の意見を吸い上げるため、システムの拡張及び改装等を行う。 ・より県民のニーズに応じた講座が増えるよう、市町村の要請等に応じて講座を企画する際の資料提供や市町村訪問の機会などを設ける。

No.3 福島県芸術祭参加行事数
【目標値：135件以上(令和12年度)】

評価
A (見込)

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	110	115	120	125	127	129	131	133	135
実績値	101	115							

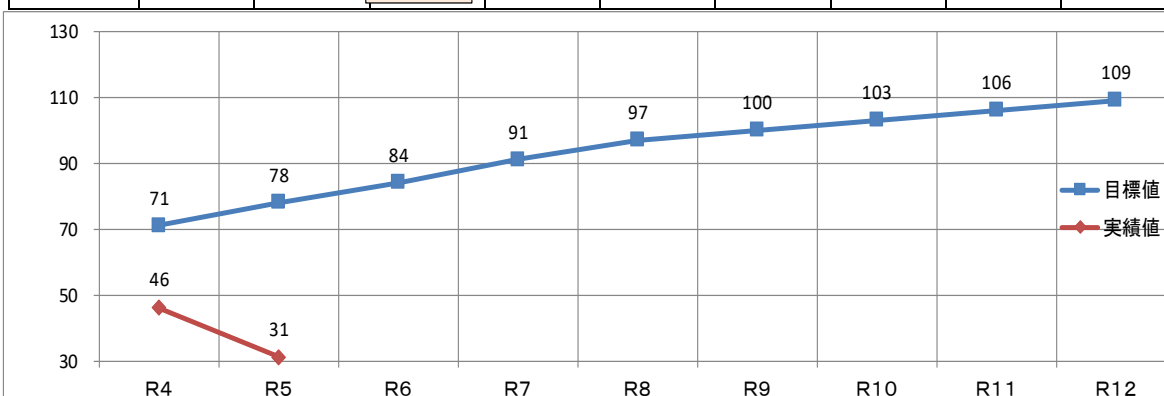


達成見込	・コロナ禍により令和4年度まで中止を余儀なくされていた行事が再開することができ、目標を達成した。
今後の取組	・県芸術文化団体連合会や市町村と連携して、各地域で実施している文化行事の芸術祭への参加促進を図るとともに、芸術祭の広報・周知等を行っていく。

No.9 福島県文化センター利用料金免除件数
【目標値：109件(令和12年度)】

評価
D

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	71	78	84	91	97	100	103	106	109
実績値	46	31	11月末時点						



達成見込	・令和4年3月に発生した地震により客席天井が被害を受けた大ホールが利用休止中であり、催事件数そのものが例年より少なくなっているため、これに伴い利用料金免除件数も目標を下回っている。
今後の取組	・令和6年度から復旧工事に着手する予定である。

推進施策2 芸術の鑑賞その他文化に接する機会の拡充

県民が身近なところで容易に文化に接することができる機会を拡充します。

(1) 優れた文化芸術に親しむ機会の充実

令和5年度の主な取組

○ 県立美術館の企画展・常設展開催（社会教育課）【91,754千円】

特別なテーマによる企画展を開催するとともに、企画展や常設展と連動した鑑賞講座、講演会等を開催しています。

【12月末現在】

- ①企画展「美をつくしー大阪市立美術館コレクション」展 講演会1回
- ②特集展示「眼にうつる詩」展 ギャラリートーク1回
- ③企画展「ブルターニュの光と風」展 講演会1回、ギャラリートーク4回、出張レクチャー1回
- ④企画展「少女たちー星野画廊名品展」 特別ゲストトーク1回、ギャラリートーク3回
- ⑤企画展「現代版画の小宇宙」展 講演会1回、ギャラリートーク1回
- ⑥常設展 常設トーク3回

○ 県立美術館の教育普及講座（社会教育課）【1,495千円】

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催しています。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、学校と連携しての出張講座等を行っています。

【12月末現在】

- ①芸術鑑賞講座 3回開催、参加者数147名
- ②創作プログラム 14回開催、参加者数611名
- ③図書館との連携講座「アートなおはなしかい」 1回開催、参加者数17名
- ④学校連携共同ワークショップ 10校、参加者数248名

○ 県立博物館の企画展開催経費（社会教育課）【21,820千円】

特別なテーマによる企画展を開催するとともに、企画展と連動した講座、講演会等を開催しています。

【12月末現在】

- 3つの企画展と関連した解説会や講座・講演等のイベントを実施（イベント数18、参加者700名）

○ **県立博物館の学校教育・生涯学習支援活動（社会教育課）【15,504千円】**

学芸員による各種講座のほか、外部講師によるさまざまな講座・講演等を実施しています。

【12月末現在】

- 各分野の講座や講師派遣、ゲストティーチャーを実施した。
- 分野講座（テーマ展関連、共催・講演事業、特別講座含む）40回 2,746人、講師派遣受講624人、ゲストティーチャー受講2,862人

○ **第17回声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【19,278千円】**

全国トップレベルの声楽アンサンブルグループによるコンテストを開催し、音楽文化の更なる発展を図るとともに、歌うことの楽しさや「合唱王国ふくしま」を全国に発信します。

- 開催日：令和6年3月21日（木）～3月24日（日）
- 21日～23日に部門別コンテスト（小学校・ジュニア、中学校、高等学校、一般の4部門）を行い、24日に本選を行う。
- 出場団対数（予定）：120団体
- 5年振りに海外審査員を招聘

○ **障がい者の社会参加促進事業（障がい福祉課）【16,193千円】**

障がい者芸術文化活動の推進、ふくしま共生サポーターの養成、民間活動の支援、普及啓発活動の推進により県民の理解を深め障がいのある方が社会参加しやすい機運の醸成を図るとともに、芸術文化活動の推進を通して障がいのある方の活躍を促進し障がいのある方がいきいきと暮らせる社会の実現を目指しています。

- 障がい者芸術作品展「きになるびょうげん2023」
 - 開催場所：はじまりの美術館（猪苗代町）
 - 開催期間：令和5年11月18日（土）～令和6年1月14日（日）
 - 応募作品数474点 来場者数1,699名
- とりどりのアート事業「とりどりの音楽祭」開催予定日：令和6年3月3日（日）
 - 開催場所：とうほう・みんなの文化センター
- 障がい者芸術文化活動支援センター運営支援
 - 障がい者の芸術文化活動に関する相談支援や人材育成、情報収集・発信等を行う障がい者芸術文化活動支援センター（はじまりの美術館）を設置する法人へ補助を行った。

○ うつくしま、ふくしま。健康福祉祭開催事業（健康づくり推進課）【1, 864千円】

高齢者の健康と生きがいをづくりを推進し、社会活動の振興を図るため、「福島県シルバー美術展」を開催し、高齢者が制作している作品の展示を行っています。

- 開催場所：とうほう・みんなの文化センター
- 開催期間：令和5年9月7日（木）～9月11日（月）
- 応募作品数298点 入場者数1,096人

令和6年度の主な取組予定

- 県立美術館の企画展・常設展開催（社会教育課）【121,930千円】
- 県立美術館の教育普及講座（社会教育課）【1,495千円】
- 県立博物館の企画展開催経費（社会教育課）【27,513千円】
- 県立博物館の学校教育・生涯学習支援活動（社会教育課）【5,232千円】
- 国際芸術鑑賞事業（文化振興課）【77,157千円】
- 第18回声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【19,198千円】
- 障がい者の社会参加促進事業（障がい福祉課）【13,640千円】
- うつくしま、ふくしま。健康福祉祭開催事業（健康づくり推進課）【1,864千円】

指標から見た施策の進捗状況

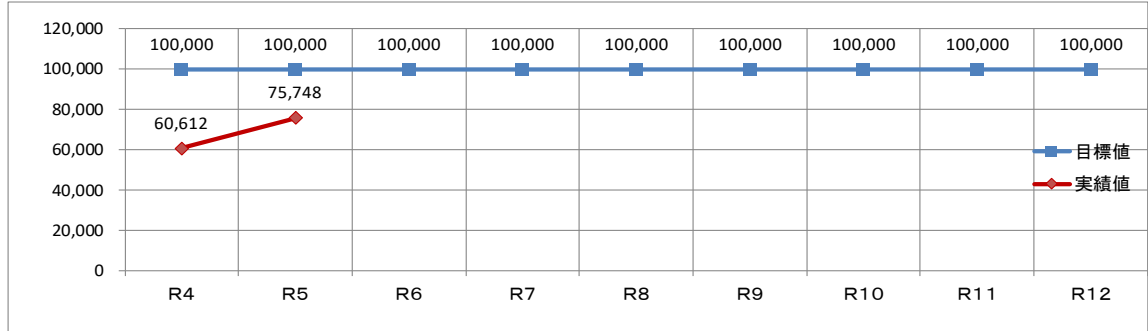
【指標の評価方法】 A: 100%以上 B: 99~80% C: 79~70% D: 69%以下

No.4 県立美術館の入館者数 【目標値: 100,000人(令和12年度)】

評価
B
(見込)

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
実績値	60,612	75,748	12月末時点						



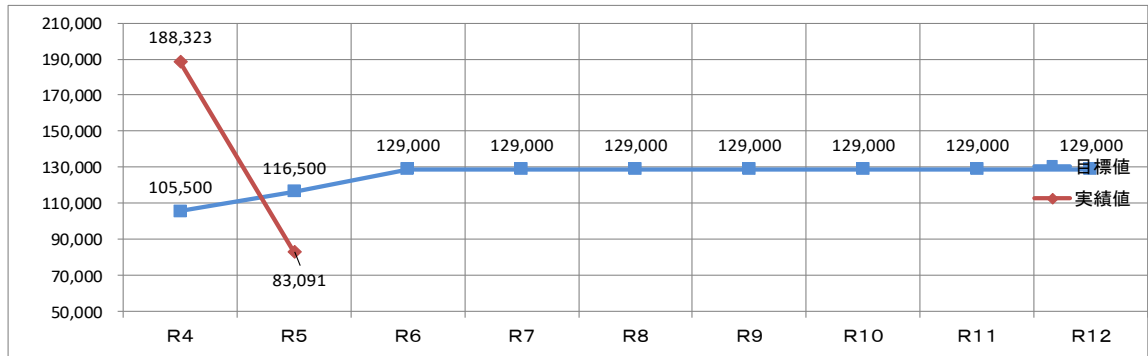
達成見込	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は、福島県にゆかりのある美術家を紹介する展覧会を中心に開催したものの海外展等の大規模企画展ほどの入館者数にはならなかった。また、新型コロナウイルス感染症の影響(団体観覧の減少等)もあり、入館者数が伸び悩み、目標達成率は60.6%であった。令和5年度は、大規模企画展を4月から8月にかけて2展実施するなど集客に努めた結果、12月末時点で目標達成率75.7%となったが、今後、1月以降の企画展や常設展を含めた入館者数見込みは81,000人強であり、目標値達成は困難な見込みである。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者のアンケート結果や、他館の入館状況も踏まえ、人気の高い大型企画展や、注目度の高い自主企画展を開催する。 ・企画展の連動や時節に即した内容を考えながら、常設展を企画する。 ・新聞、テレビ、HP、SNSなどを活用し、どの年齢層にも、企画展の内容や魅力を、わかりやすく伝えるような表現で、企画展開始前から繰り返し広報する。 ・感染防止対策を継続するとともに、安心して来館いただける環境を維持する。そのために、美術館への要望のうち、対応できる内容については、可能な限り速やかに対応する。

No.5 県立博物館の入館者数 【目標値: 129,000人(令和12年度)】

評価
B
(見込)

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	105,500	116,500	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000
実績値	188,323	83,091	12月末時点						



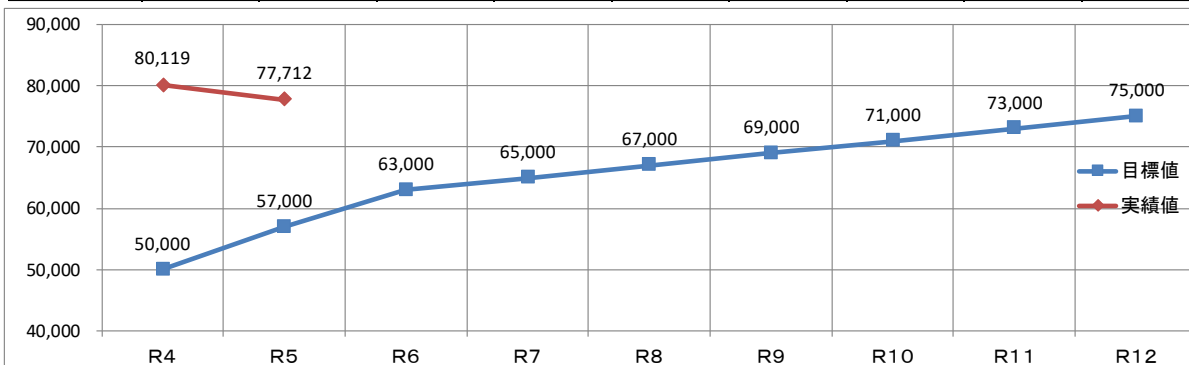
達成見込	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染法上の分類が5月8日より季節性インフルエンザと同じ5類に引き下げられ、学校団体の教育旅行等の入館者数は元に戻りつつある。 ・博物館に求められる役割の多様化に対応するため、イベント等館内行事に加え、移動展(アウトリーチ事業)やゲストティーチャー等、幅広い活動の充実を図り、文化観光や地域の活力向上にも取り組んできた。 ・今年度は春の企画展「GO!GO!5世紀」、夏の企画展「仕事の仕事をしている仕事」、秋の企画展「伝える 災害の記憶」などを実施したが、比較的規模の小さな自主開催でもあり、12月末までの実績を踏まえると、年度末までの館内事業の入館者数見込みは95,000人弱であり、目標値達成は困難な見込みである。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」(R2~6年度)に基づく展示室のサイン表示・解説等の多言語化やレストコーナー整備等による施設の魅力アップなどを通じて、外国語ユーザーやリピーターの確保を図り、引き続き文化観光や地域の活力向上に取り組むとともに入館者数の増加に努めていく。

No.6 東日本大震災・原子力災害伝承館の入館者数
【目標値：75,000人(令和12年度)】

評価
A

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	50,000	57,000	63,000	65,000	67,000	69,000	71,000	73,000	75,000
実績値	80,119	77,712	12月末時点						

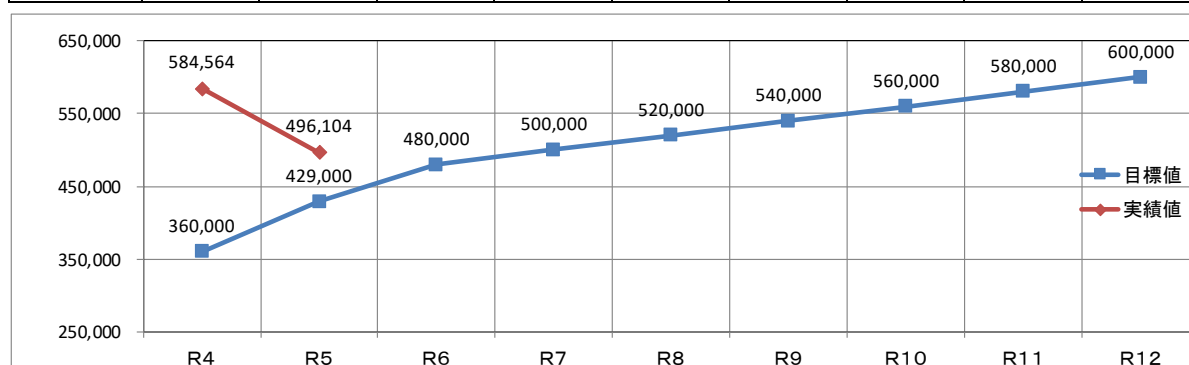


達成見込	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き県内外に広報を行い、浜通りの13施設と連携した風評の払拭につながるイベントや県外展示を実施すると共に、旅行者向けのモニターツアーを実施した。さらに、他の県内施設及び県内スポーツ団体のホーム戦観戦者に対する入館料割引の導入によるサービス向上などにより、県内外からの利用者増加に努めてきたことで令和5年度の目標値を上回るとともに、前年同月比でも上回って推移している。 ・すでに、入館者数・研修参加者数のいずれも、令和12年度の目標値を上回っており、指標の見直しが必要と考えるが、要因が新型コロナによる行動制限の解除に伴う反動によるものなのか、伝承館の集客努力によるものなのか、伝承館が新型コロナ蔓延中の令和2年度に開館しているため増加理由の特定が困難であることから、来館者の動向や、本来の観光客入込数など多角的に解析し次年度の見直しを目指すこととした。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・館としての学びの魅力を維持・向上させていくため、計画的な展示内容の更新や企画展の開催、研究事業の成果を踏まえた研修プログラムを充実させていく。 ・帰還や新たな拠点整備等新しい局面を迎える被災自治体の状況を踏まえながら、被災地域全体で、震災の教訓や復興する地域の姿、魅力を発信していく。

No.7 アクアマリンふくしまの入館者数
【目標値：600,000人(令和12年度)】

評価
A

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	360,000	429,000	480,000	500,000	520,000	540,000	560,000	580,000	600,000
実績値	584,564	496,104	12月末時点						



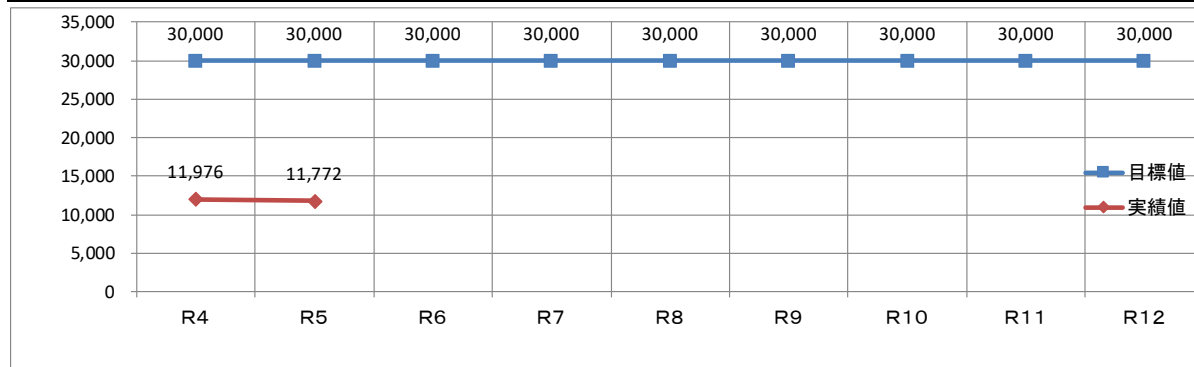
達成見込	<ul style="list-style-type: none"> ・R5年度の入館者数は、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限の反動のほか、全国ネットのテレビ番組での複数回の放送や新聞の全国紙への掲載等があり、当館の魅力を広く発信できたことにより大きく入館者数を伸ばし、既に目標を達成した。 ・スクール開催事業は、業務量が膨大なことから、R4度から実施方法や回数を見直した。内容をより魅力的なものとしたことで、受講者数も既に目標を達成した。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある企画開催事業を展開し、近隣施設と連携した情報発信を行っていく。 ・スクール開催事業は、見直し後の実施結果を踏まえ、より魅力的なものとなるようブラッシュアップしていく。

No.8 県文化財センター白河館の入館者数
【目標値：30,000人(令和12年度)】

評価
D
(見込)

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
実績値	11,976	11,772	12月末時点						

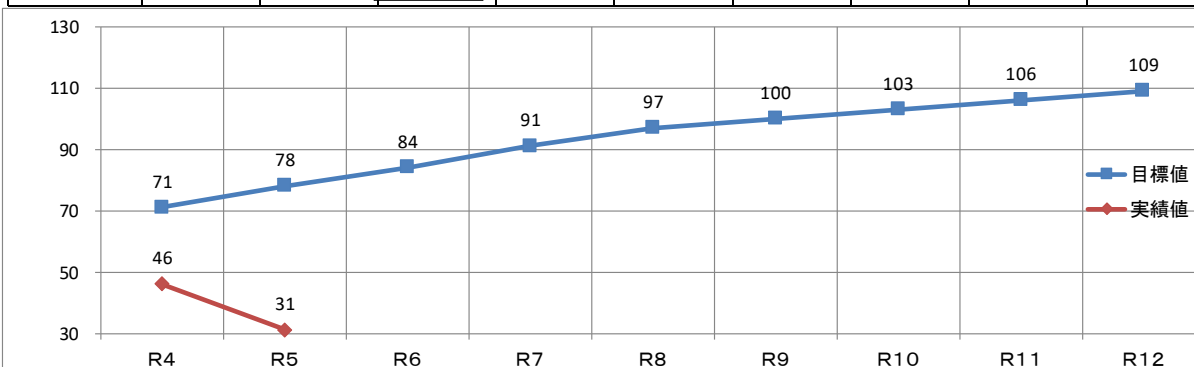


達成見込	<ul style="list-style-type: none"> ・県内外の学びの類似施設(福島市:じょーもびあ宮畑、郡山市:大安場古墳)等が競合する環境になってきたことや学校におけるカリキュラムの増加(英語、情報等)等に伴い学校の利用が減少したことなどにより、入館者数が伸びず目標を下回る見込み。 ・令和5年度では、昨年度の1年間の入館者数とほぼ同数が、9か月間で達成されており、前年度に比して、着実に回復していると考えられる。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、SNSを含む戦略的な情報発信や来館者ニーズの把握によるリピーターの確保、類似施設との差別化などを図りつつ、各種展示の充実と質の向上に努めていく。

(再掲)No.9 福島県文化センター利用料金免除件数
【目標値：109件(令和12年度)】

評価
D

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	71	78	84	91	97	100	103	106	109
実績値	46	31	11月末時点						

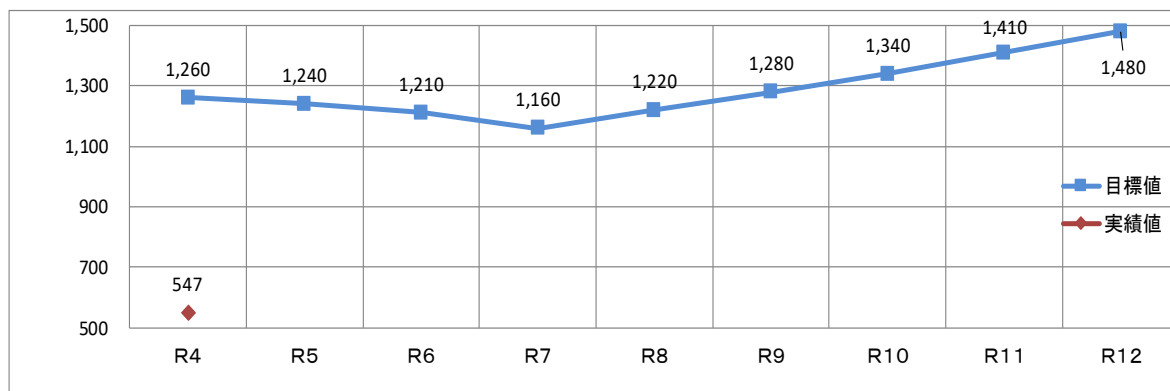


達成見込	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年3月に発生した地震により客席天井が被害を受けた大ホールが利用休止中であり、催事件数そのものが例年より少なくなっているため、これに伴い利用料金免除件数も目標を下回っている。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度から復旧工事に着手する予定である。

No.10 声楽アンサンブルコンテスト全国大会のライブ配信視聴者数
【目標値: 1,480人(令和12年度)】

評価
—

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	1,260	1,240	1,210	1,160	1,220	1,280	1,340	1,410	1,480
実績値	547								



令和3年度と 令和4年度の 比較	・R4年度の目標値は、コロナ禍により有観客での開催が制限されることを見込んで設定していたが、感染対策を徹底し、会場での観覧が可能になったため、これに伴い配信視聴者数が目標値を下回った。
今後の取組	・出演する団体の保護者など出場団体関係者へのより効果的な周知、SNSを活用した情報発信、全日本合唱連盟や各都道府県合唱連盟と連携したPRなど、きめ細かで積極的な広報を行い、大会及び合唱王国ふくしまの認知度向上を図り、来場者数、配信視聴者数の増加を目指す。

推進施策3 青少年の文化活動の促進

青少年が身近な地域や学校において、その地域で育まれてきた文化を始め多様な文化に接する機会の充実を図るとともに、主体的に文化活動ができるよう環境の整備を図ることにより、青少年の文化活動を促進します。

- (1) 鑑賞機会等の充実
- (2) 学校教育等における文化活動の促進

令和5年度の主な取組

○ ふくしま「若者×デジタル芸術×デジタル」推進事業（文化振興課）【14,880千円】

県内の若い世代を対象に、デジタルツールを活用したメディア芸術をテーマに公募展覧会を開催するほか、特別講義やワークショップを通じてメディア芸術への関心を高め、青少年の文化活動の支援及び人材育成を図っています。

①公募展覧会

- 応募作品数 198点（静止画部門：124点、動画部門：47点、テーマ部門：27点）
- 会津展：令和5年11月10日（金）～12日（日）
スマートシティA i C T交流棟 入場者数541名
- 郡山展：令和6年1月26日（金）～28日（日）
いわき産業創造館（L A T O V 6階） 入場者数496名
- WEB展示：全ての応募作品について、特設ホームページで公開
- 特別講義：①講師 渡邊晃一氏（福島大学教授）テーマ「Society5.0時代のアート」
②講師 伊藤有壺氏（アニメーションディレクター、東京藝術大学大学院教授）
テーマ「進化するクレイアニメーションとその未来」
令和6年1月27日（土）いわき産業創造館で開催 参加者40名

②ワークショップ

- 6プログラム、延べ8回開催 参加者数110名

○ 【再掲】第77回福島県総合美術展覧会（文化振興課）【15,770千円】

県内在住者及び県出身者から美術作品を公募し、一般に展覧することにより、本県美術の振興を図るとともに、優れた美術作品の鑑賞機会の拡充を図っています。

- 開催時期：令和5年6月23日（金）～7月2日（日）
- 開催場所：とうほう・みんなの文化センター
- 展示状況等：公募出品数675点【うち青少年209点】、招待等出品数161点、陳列作品数672点（内訳：日本画65、洋画304、彫刻40、工芸美術59、書194）
- 入場者数6,821人
- 美術奨励賞以上の入賞作品31点を県公式YouTubeにおいて公開
- 出張展を2箇所で開催（会津若松市、相馬市）

○ **【再掲】第76回福島県文学賞（文化振興課）【4, 051千円】**

県内在住者及び県出身の学生・生徒から文学作品を公募し、成果発表の場を提供するとともに、優秀作品を顕彰することにより本県文学の振興と地域文化の進展を図っています。

- 募集期間：令和5年7月1日～7月31日（令和4年度から電子データでの受付開始）
- 部門：小説・ドラマ、エッセー・ノンフィクション、詩、短歌、俳句の5部門
- 応募状況：応募総数222点【うち青少年37点】
（内訳：小説・ドラマ49、エッセー・ノンフィクション36、詩36、短歌41、俳句60）
- 顕彰：令和5年11月3日（金・祝）に各部門の正賞、準賞等の入賞者を表彰
- 県文学賞講演会：県高等学校文化連盟と共同で開催。
講師：逢坂 冬馬氏（小説家） 参加者：約100名
- 県文学集 入賞作品を掲載した県文学集を令和6年3月に発行予定

○ **コミュニケーション能力育成事業（高校教育課）【4, 515千円】**

演劇や哲学対話による表現活動を通して他者を理解する力や自己肯定感、自己表現力を育むとともに、主体的・対話的で深い学びを促進することで学力向上を図る。

- 演劇によるコミュニケーション能力育成事業においては、小中学校3校、高校3校をモデル校に指定し、外部講師によるワークショップを計画に基づき実施中（12月末時点）。
- 哲学対話によるコミュニケーション能力育成事業においては、高校2校をモデル校に指定し、大学教授等を講師としたワークショップを計画に基づき実施。

○ **福島県高等学校総合文化祭補助金（高校教育課）【1, 000千円】**

福島県高等学校総合文化祭開催のため、福島県高等学校文化連盟とともに、福島県及び福島県教育委員会が福島県高等学校総合文化祭を実施する場合に補助金を交付しています。

- 26部門の専門部において、第42回福島県高等学校総合文化祭を開催

○ **ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト（社会教育課）【3, 114千円】**

福島県全体の読書活動について検討する場や高校生の情報発信能力を県内外に発信する場、幼児期の読書の大切さを広報する場を設定することにより、読書環境の改善を図っています。また、各地域で活躍できる読書活動支援者を育成するとともに、資質向上を図り、自立的・自発的に活動ができるよう支援しています。

- 読書活動支援者育成事業
県内7地区で各1回実施 参加者計307名
- ビブリオバトル福島県大会
11月25日（土） とうほう・みんなの文化センター
発表者20名、観戦者202名
※地区大会を県内3地区で開催、発表者42名 観戦者272名

○ 文化芸術による子供育成総合事業（文化庁）〔窓口：文化振興課〕

● 巡回公演事業

小学校・中学校等において一流の文化芸術団体による巡回公演を行うことにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成を図っています。

- 令和5年度採択 55校（合唱1校、オーケストラ等11校、音楽劇3校、児童劇11校、演劇2校、ミュージカル3校、バレエ2校、歌舞伎・能楽9校、人形浄瑠璃2校、邦楽5校、演芸6校）

● 芸術家の派遣事業

個人又は少人数の芸術家を小学校・中学校等へ派遣し、講話・実技披露、実技指導を行うことにより、子供たちの創造力、思考力などの能力の育成を図っています。

- 令和5年度採択 28校（演劇1校、音楽25校、舞踊2校）

令和6年度の主な取組予定

- ふくしま「若者×メディア芸術×デジタル」推進事業（文化振興課）【18,053千円】
- [再掲] 第77回福島県総合美術展覧会（文化振興課）【15,770千円】
- [再掲] 第76回福島県文学賞（文化振興課）【4,051千円】
- コミュニケーション能力育成事業（高校教育課）【4,305千円】
- 福島県高等学校総合文化祭補助金（高校教育課）【1,000千円】
- 中学校文化部活動体制整備促進事業（義務教育課）【7,087千円】
- ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト（社会教育課）【2,179千円】
- 文化芸術による子供育成総合事業（文化庁）

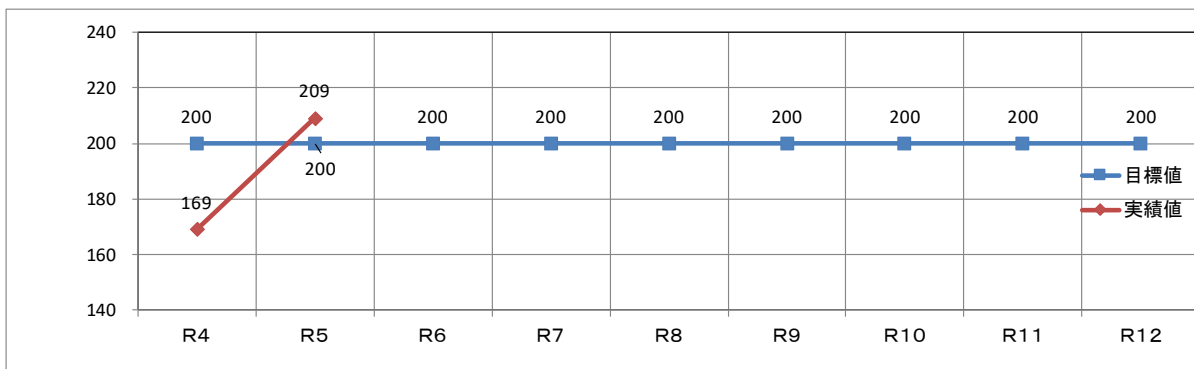
指標から見た施策の進捗状況

【指標の評価方法】 A: 100%以上 B: 99~80% C: 79~70% D: 69%以下

No.11 青少年の県総合美術展覧会への出品数 【目標値: 200点以上(令和12年度)】

評価
A

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	200	200	200	200	200	200	200	200	200
実績値	169	209							

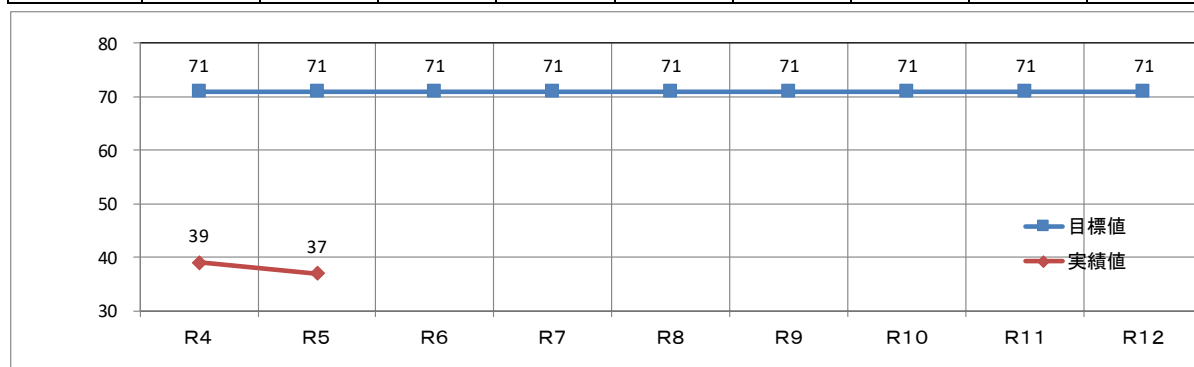


達成見込	<ul style="list-style-type: none"> ・福島県高等学校文化連盟と連携しながら学校等への周知活動を進めた結果、平成21年以来、14年振りに青少年の応募数が200点を上回り、目標を達成した。 ※青少年は、高校生以上20歳以下
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、福島県高等学校文化連盟との連携を進めるなど、学校と連携して県展の魅力のPRを強化していく。 ・美術部等の部活動が学校に無い場合でも、美術への興味、関心のある生徒が活動を始める・続けることができるように、文化団体や地域の指導者との連携を図っていく。

No.12 青少年の県文学賞への応募数 【目標値: 71点以上(令和12年度)】

評価
D

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	71	71	71	71	71	71	71	71	71
実績値	39	37							



達成見込	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の文化活動も多様化し、文芸活動に携わる青少年が減少傾向にあるため、県文学賞への青少年の応募数も減少し、目標の達成に至っていない。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校、高等学校と連携して県文学賞の学校への周知活動を行っていく。 ・応募規格の見直し(短歌、俳句部門で応募に必要な首(句)数を15→10に減ずる)により、俳句部門は前年度より応募者数が増加しており、青少年の応募しやすい環境づくりとして応募規格等の見直しを引き続き検討していく。 ・若手作家の講演会開催など、青少年の文学への関心・興味が高まるような取組を進めていく。

推進施策4 伝統文化の継承及び発展

東日本大震災、原子力災害の影響が続いている本県では、伝統文化が地域の絆を支えてきた経験をいかしながら、文化財を含めた伝統文化を次世代に継承し、地域におけるまちづくりや観光などの資源として積極的に活用し発展させます。

- (1) 伝統文化の継承と発展
- (2) 文化財の保存と活用

令和5年度の主な取組

○ 「地域のたから」民俗芸能総合支援事業（文化振興課）【20,329千円】

● 民俗芸能公演事業

民俗芸能の継承を図るため、「ふるさとの祭り」を開催し、震災等の影響により、公演の機会のない民俗芸能団体を中心に芸能披露の場を提供しております。

- より多くの民俗芸能団体に芸能披露の機会を提供するため、他機関が主催するイベントに出張公演という形で積極的に参加するとともに、来場できない方にも芸能を鑑賞いただけるように動画を撮影し、県公式YouTubeで公開しました(1月末公開)。

①福島市公演（「日米対抗ソフトボール2023」に出張公演）

- ・日程：令和5年8月6日（日）
- ・場所：県営あづま球場
- ・出演：1団体 ・来場者数：3,487名

②郡山市公演（「楽しいオーケストラ in 福島」に出張公演）

- ・日程：令和5年8月19日（土）
- ・場所：けんしん郡山文化センター
- ・出演：1団体 ・来場者数：860名

③大熊町公演（「ふたばワールド2023in おおくま」に出張公演）

- ・日程：令和5年10月7日（土）
- ・場所：学び舎 ゆめの森特設会場内
- ・出演：2団体 ・来場者数：8,000名

④いわき市公演（「いわき大物産展」と同時開催）

- ・日程：令和5年10月14日（土）・15日（日）
- ・場所：アクアマリンパーク
- ・出演：17団体 ・来場者数：10,000名

● 民俗芸能復興サポート事業

専門家との連携により、芸能団体の活動再開から継続、担い手の育成まで、各団体の実情に応じた総合的、一体的な支援を行っています。

■ 研修会等 7回（10月～2月）

芸能団体等を対象として、活動再開や継続に向けた課題や地域における取組事例の情報提供や助言指導を行っています。

- 市町村個別訪問による行政意見交換 19市町村（予定含む）
地元の民俗芸能団体が抱えている活動継続に向けた課題やその対策、具体的な活動事例などについて、市町村担当者と意見交換し、情報共有を行っています。
- 個別訪問 33団体（12月末時点）
芸能団体を専門家が訪問し、個別具体的な助言指導を行っています。
- 学校との連携活動 5校（12月末時点）
県内の小・中学校において、子ども向けのテキストを活用して民俗芸能の説明や地元等の民俗芸能の披露・体験等を実施し、子どもたちに民俗芸能の魅力等を感じてもらおう取組を行っています。

○ 大学生と集落の協働による地域活性化事業（地域振興課）【12, 975千円】

県内外の大学生等のグループと集落との交流を通して、若者や外部からの新たな視点を取り入れ、集落活性化の取組の実現・継続のサポートを行っています。地域活動に関心の高い大学生等との橋渡しを行うことで、地域と多様な形で関わりを持つ関係人口の創出・拡大を併せて図ります。

- 当該事業を活用し、県外の大学が浪江町の民俗芸能保存会と協同して、民俗芸能の継承等に取り組んでいます。

○ 進化する伝統産業創生事業（県産品振興戦略課）【28, 394千円】

伝統産業の後継者不足や消費者のライフスタイル・価値観の変化による需要減少等の課題解決に向け、後継者確保、人材育成を目的としたアカデミーやインターンシップを実施するとともに、デジタルを活用した伝統工芸の情報発信や販売促進、飲食店での活用促進を行っています。

- ふくしまクリエイティブクラフトアカデミーの運営
 - 県内の伝統工芸に携わる職人・事業者や今後それらの担い手を目指す者を対象に、マーケティング・ブランディング等に係る知識を習得し、販売力強化に向けたスキルアップを図るとともに、県内の各産地や若手職人等の連携を実現するために「ふくしまクリエイティブクラフトアカデミー」を開催。コシノジュンコ氏を校長に迎え、8月1日に開講し、17名が修了予定。
- インターンシップの実施
 - 伝統工芸や地場産業への関心が高い県内外の大学生等を対象に、技術や販売等の職場体験を通じた後継者育成を図ることを目的にインターンシップを実施する。受入事業者11社で参加研修生42名（令和6年1月26日現在）がインターンシップに参加した。

○ **伝統文化親子教室事業（文化庁）〔窓口：文化振興課〕**

子どもたちに対して、民俗芸能、邦楽、日本舞踊、茶道、華道などの伝統文化に関する活動を体験・習得できる機会を提供しています。

- 令和5年度採択 20教室

○ **指定文化財保存活用事業（文化財課）【49, 125千円】**

文化財の保存と活用を一体的に図るため、文化財の修復等保存事業と公開等活用事業を実施する場合に、補助金を交付しています。

- 当初予算で計上していた文化財に加えて、令和4年3月16日に発生した福島県沖地震、令和5年9月8日に発生した台風13号により被災した文化財への補助金を交付するなどとして計画的に実施している。

○ **文化財保存活用地域計画策定支援（文化財課）【予算なし】**

文化財保存活用地域計画の策定を進める市町村に全国的な先行事例の紹介や災害発生時の文化財救援活動の手順、文化財の防災・減災のための調査の実施方法、文化財浸水ハザードマップの作成方法などについて、指導助言・支援を行っています。

○ **福島県文化財センター白河館の管理運営（文化財課）【277, 264千円】**

文化財等の保管・活用により、県民の文化の振興に資するため設置した福島県文化財センター白河館の維持管理を行うとともに、国民の財産である文化財の保存・公開・活用を通して文化財保護思想の普及啓発を図るための事業を展開しています。（施設の維持・管理運営事業）

令和6年度の主な取組予定

- 「地域のたから」民俗芸能総合支援事業（文化振興課）【20,546千円】
- 大学生と集落の協働による地域活性化事業（地域振興課）【8,855千円】
- 進化する伝統産業創生事業（県産品振興戦略課）【27,393千円】
- 伝統文化親子教室事業（文化庁）
- 指定文化財保存活用事業（文化財課）【37,265千円】
- 文化財保存活用地域計画策定支援（文化財課）【予算なし】
- 福島県文化財センター白河館の管理運営（文化財課）【302,721千円】

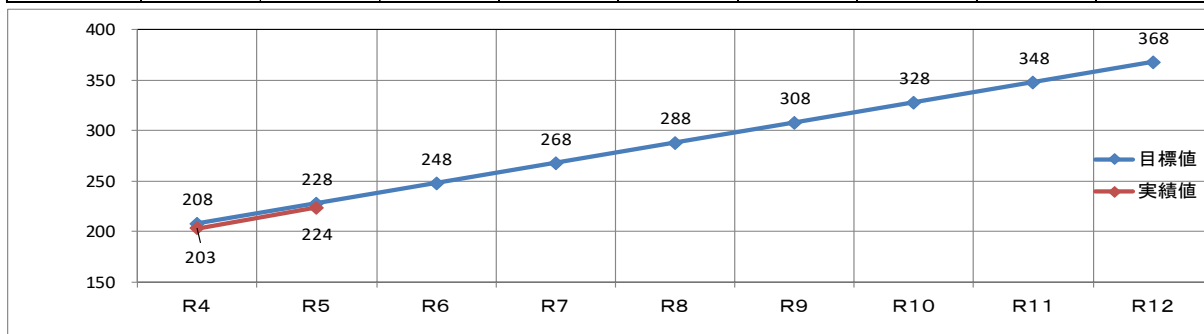
指標から見た施策の進捗状況

【指標の評価方法】 A:100%以上 B:99~80% C:79~70% D:69%以下

No.13 ふるさとの祭り参加民俗芸能団体数 【目標値:累計368団体(令和12年度)】

評価
B

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	208	228	248	268	288	308	328	348	368
実績値	203	224							



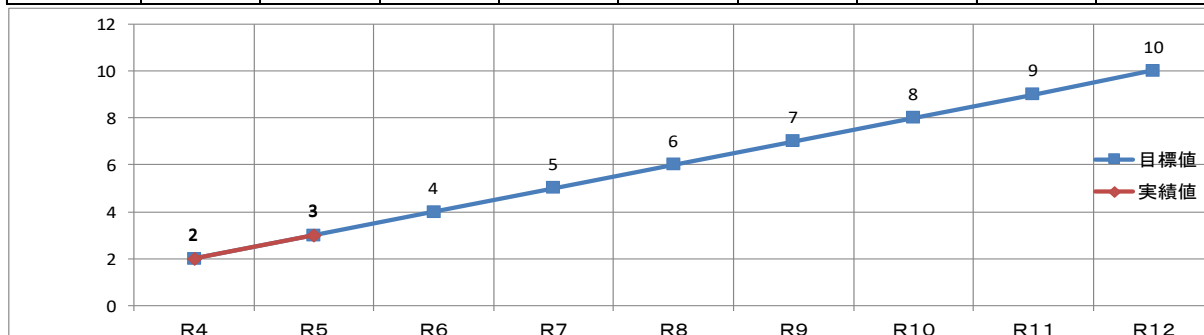
達成見込	<ul style="list-style-type: none"> 民俗芸能の継承・活動再開に向けた支援として、活動成果の発表機会となる「ふるさとの祭り」を開催しており、R5年度は自らが開催する祭りに加えて、他の主催イベントに出張公演する形式にも取り組み、単年度の目標である20団体を上回る21団体が祭りに参加し、概ね目標を達成した。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、県内各地で開催される各種イベントにおいて、民俗芸能をより多くの県民に知ってもらう機会、芸能を披露する機会を確保する観点から、「ふくしまの祭り」として参加できるよう調整を進めていく。 担い手の確保のため、移住者、定住者や県内外の大学生などが、民俗芸能団体との連携や活動の協力をし、関係づくりに取り組んでいく。

No.14 市町村における文化財保存活用地域計画を作成した市町村数 【目標値:10市町村(令和12年度)】

評価
A

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	2	3	4	5	6	7	8	9	10
実績値	2	3							



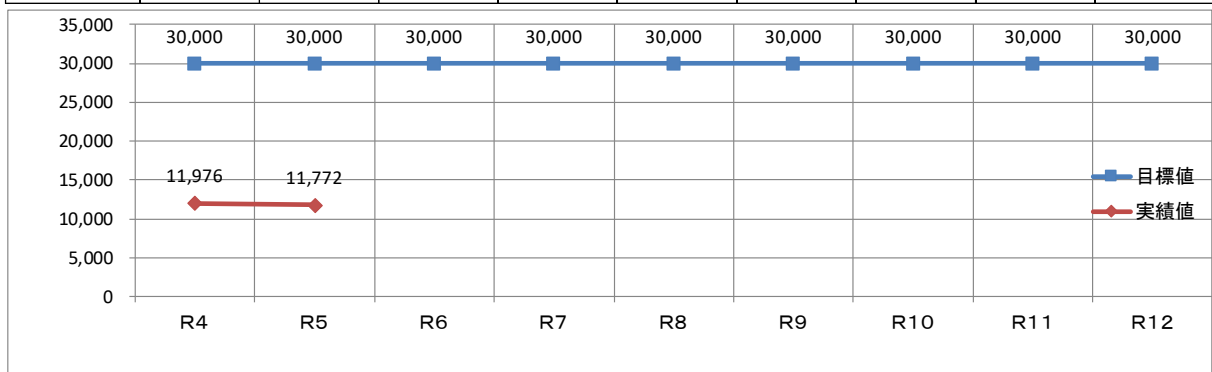
達成見込	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年12月に白河市、及び令和4年7月に会津若松市、令和5年7月に喜多方市の文化財保存活用地域計画がそれぞれ文化庁の認定を受け、目標を達成した。令和5年度は更に石川町が同計画の認定申請を予定しており、次年度以降は他に4市町が新規に作成を始めた。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度から文化財保存活用促進事業を立ち上げた。今後は先行事例の紹介や災害発生時の文化財救援活動の手順などの指導助言・支援を行う「市町村支援プログラム」も活用し、文化庁の補助事業等の情報も提供しながら、市町村に同計画の作成を促していく。

(再掲)No.8 県文化財センター白河館の入館者数
【目標値:30,000人(令和12年度)】

評価
D
(見込)

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
実績値	11,976	11,772	12月末時点						



達成見込	<ul style="list-style-type: none"> ・県内外の学びの類似施設(福島市:じょーもぴあ宮畑、郡山市:大安場古墳)等が競合する環境になってきたことや学校におけるカリキュラムの増加(英語、情報等)等に伴い学校の利用が減少したことなどにより、入館者数が伸びず目標を下回る見込み。 ・令和5年度では、昨年度の1年間の入館者数とほぼ同数が、9か月間で達成されており、前年度に比して、着実に回復していると考えられる。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、SNSを含む戦略的な情報発信や来館者ニーズの把握によるリピーターの確保、類似施設との差別化などを図りつつ、各種展示の充実と質の向上に努めていく。

推進施策5 生活文化の充実

ふくしまの生活環境の中から育まれた食文化などの生活文化の継承と振興を図ります。

- (1) 食文化の継承と振興
- (2) 生活文化等の振興

令和5年度の主な取組

○ 元気なふくしまっ子食環境整備事業（健康教育課）【3, 534千円】

食習慣、肥満等の健康課題に対応するため、栄養教諭を始めとした食育指導者の資質向上を図り、園児・児童生徒等の食生活の環境整備を行うとともに、食育の観点から地場産物活用促進のため、地場産物を活用した料理コンテストを開催し、入賞したレシピを県民に発信しています。

- 「ふくしまっ子ごはんコンテスト」（対象：小・中学生）を開催し、前年度の応募数（18,087件）を上回る18,911件の応募があった。
- 栄養教室食育研修会（6月）、食環境を考える会（8月）の実施により、食育関係者に本県事業の理解が深まり、栄養教室等の応募増につながった。

○ ふくしま'食の基本'推進事業（農産物流通課）【13, 268千円】

東日本大震災と原発事故の影響により、県内の子どもが地域の食に関する体験や知識を得る機会が減少しているため、食に関する体験活動を推進するとともに、地域における食育推進活動を支援しています。

- 食育実践サポーターとして、245名登録、子どもの食育に係る授業や研修会等へのべ101人派遣した。（12月末時点）
- ふるさとの農林漁業体験支援事業として、16事業の食育に関する体験を支援した。（12月末時点）

○ 福島県建築文化賞（建築住宅課）【1, 282千円】

地域の周辺環境に調和し、景観上優れた建築物等を表彰し、文化的な魅力のあるまちづくりに対する意識の高揚を図っています。

- 今年度の応募作品36点に対し、8月に一次審査、10月に現地審査及び11月に最終審査を実施し、11点の受賞作品を決定した。（12月末現在）

○ 【再掲】第62回福島県芸術祭（文化振興課）【1, 000千円】

県民による文化の公演発表等の促進、県民への芸術鑑賞機会の提供及び芸術文化団体等の活動促進を目的として開催し、もって本県における芸術文化の振興を図っています。

- 主催行事：31件、参加行事：84件
- 開幕式典・開幕行事：令和5年9月3日（日）會津風雅堂 入場者数約800名

令和6年度の主な取組予定

- 元気なふくしまっ子食環境整備事業（健康教育課）【3,534千円】
- ふくしま'食の基本'推進事業（農産物流通課）【13,267千円】
- 福島県建築文化賞（建築住宅課）【1,382千円】
- [再掲] 第62回福島県芸術祭（文化振興課）【1,000千円】

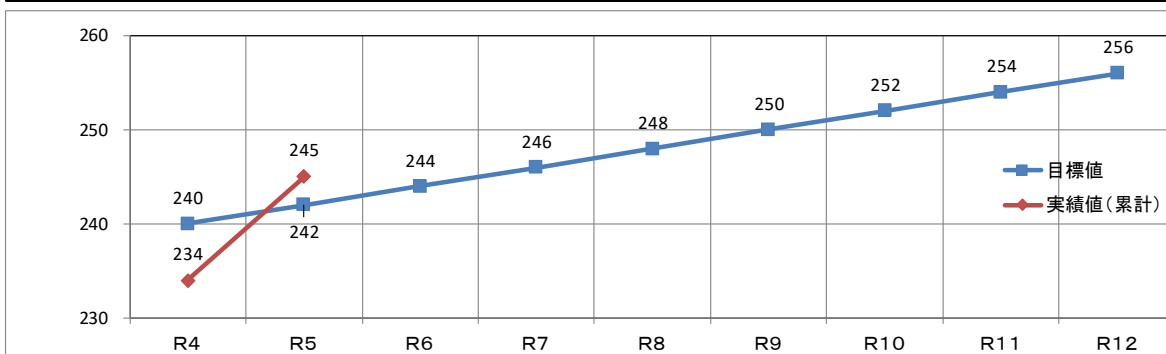
指標から見た施策の進捗状況

【指標の評価方法】 A:100%以上 B:99~80% C:79~70% D:69%以下

No.15 食育実践サポーター派遣事業実績(登録者数) 【目標値:256人(令和12年度)】

評価
A

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	240	242	244	246	248	250	252	254	256
実績値(累計)	234	245	12月末時点						



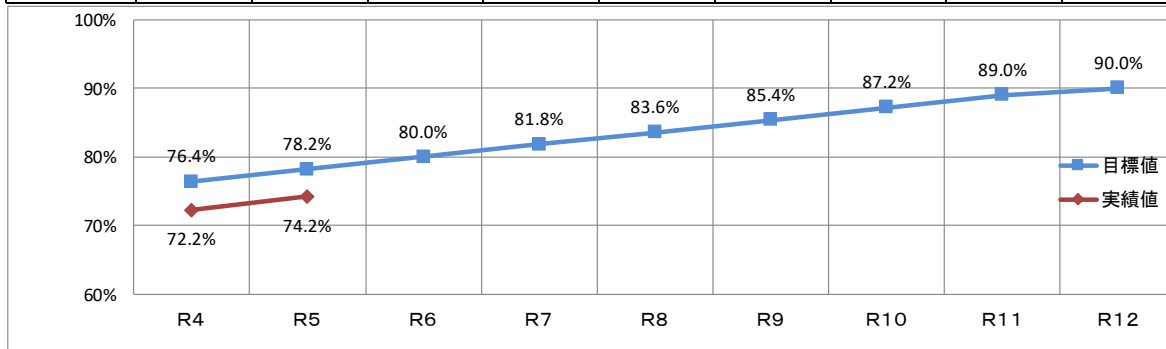
達成見込	・コロナ禍が明け活動が再開されたこと、また、物価高騰等により地産地消や食育への関心が高まっていることから、新たに食育活動を実施したい者が増えたと考えられる。また、サポーターの派遣人数も増えていることから、当該事業の認知度が向上していると考えられ、目標を達成する見込み。
今後の取組	・食育実践サポーターが活動できる場を増やすため、学校や地域団体等食育に関心がある団体に対し、食育実践サポーター派遣事業を周知し、派遣費用支援やそれぞれのサポーターの得意分野を活かしたマッチングに努め、食育活動を行いやすい環境を作る。同時に食育実践サポーターを募集し、学校や地域団体等からの食育活動への派遣要請に応えられる環境を作る。

No.16 地元産の食材を、積極的に使用していると回答した県民の割合 【目標値:90.0%以上(令和12年度)】

評価
B

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	76.4%	78.2%	80.0%	81.8%	83.6%	85.4%	87.2%	89.0%	90.0%
実績値	72.2%	74.2%							



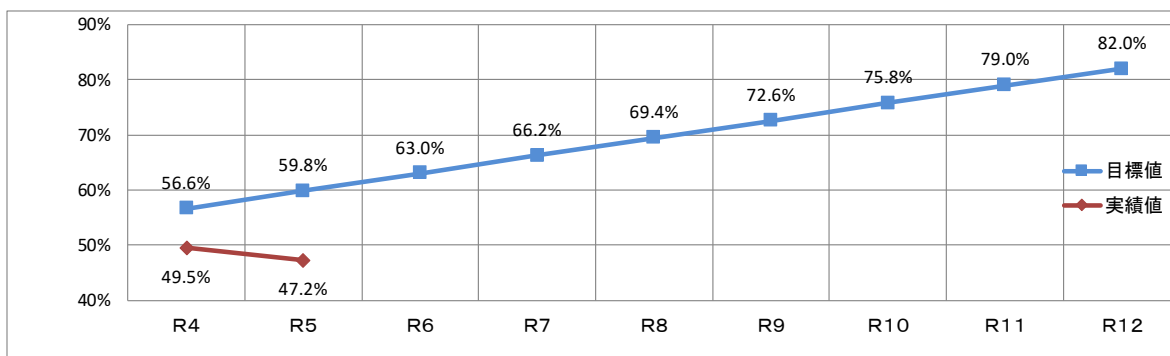
達成見込	・新型コロナウイルスの感染法上の分類が5月より5類に引き下げられたことから、地場産品や郷土料理など地域の食文化の理解を深める食育活動の場が増えるとともに、震災・原発事故で落ち込んだ学校給食における県産食材の活用割合は毎年増加するなど、地域の食文化への理解・関心は高まっており、概ね目標を達成した。
今後の取組	・幼少期から地場産品や郷土料理など、地域の食文化に触れ親しむ機会づくりを中長期的に継続していく必要がある。 ・このため、学校や企業、関係団体等による食育の推進や地域で受け継がれてきた食文化を認定する100年フード周知などに継続して取り組み、食文化や地場産品への理解を深め、地産地消の拡大につなげていく。

No.17 本県の豊かな自然や美しい景観が保全され、野生鳥獣との共生が図られていると回答した県民の割合【目標値：82.0%以上（令和12年度）】

評価
C

※県総合計画指標（県政世論調査による意識調査項目）

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	56.6%	59.8%	63.0%	66.2%	69.4%	72.6%	75.8%	79.0%	82.0%
実績値	49.5%	47.2%							



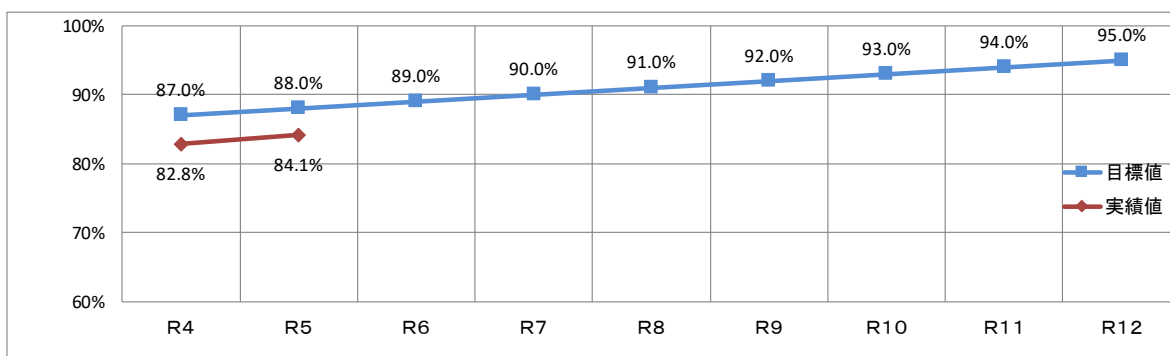
達成見込	・豊かな自然や美しい景観を文化的な資源として活用することで、県民がその価値を再認識して保全の推進にも繋げるよう取組を進めてきたところだが、前年度より指標が低下しており、目標達成のためには更なる取組の強化が必要である。
今後の取組	・地域の文化財や歴史的な建造物、街並み、美しい景観などを、文化的価値のある資源として活用していくため、観光や産業との連携を促進していく。

No.18 自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと回答した県民の割合【目標値：95.0%以上（令和12年度）】

評価
B

※県総合計画指標（県政世論調査による意識調査項目）

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	87.0%	88.0%	89.0%	90.0%	91.0%	92.0%	93.0%	94.0%	95.0%
実績値	82.8%	84.1%							



達成見込	・8割以上の県民が自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと回答しており、伝統を継承していく重要性は多くの県民に認識されており、概ね目標を達成した。
今後の取組	・より多くの県民に伝統文化の重要性を再認識してもらうため、地域に伝わる民俗芸能の継承や再開の支援、発表の機会の確保に引き続き努めていく。 ・文化財を含めた伝統文化を地域のたからとして継承しつづけていくために、文化財保存活用地域計画の作成支援や、観光など地域で様々な形で活用し、その価値や役割を高めていく。

推進施策6 文化活動を行う拠点の機能の充実

文化活動の拠点である各文化施設等について、県民の多様なニーズに対応するため、整備や機能の充実を図るとともに、県民の利用促進のために文化施設相互の連携促進など運営の充実を図ります。また、地域と連携し、地域文化についての理解を深める文化観光の推進における中核としての機能も充実させていきます。

(1) 文化施設の機能の充実・連携の促進

令和5年度の主な取組

○ 福島県文化センターの管理運営（文化振興課）【387,615千円】

県民の芸術及び文化の振興を図るために設置した福島県文化センターの維持管理、芸術の振興に資する事業を支援しています。（施設の維持・管理運営事業、利用料金免除補助事業、施設整備事業）

○ ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）の管理運営（生涯学習課）【384,243千円】

海に関する文化・科学の学習機会を提供するための拠点施設として設置したふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）の維持管理、展示資料等の更新に資する事業を支援しています。（施設の維持・管理運営事業、利用料金免除補助事業、施設修繕事業）

○ 美術館施設整備事業（施設財産室）【23,936千円】

県立美術館の修繕等を計画的に行っています。

○ 博物館施設整備事業（社会教育課）【26,735千円】

県立博物館の修繕等を計画的に行っています。

○ 文化観光拠点施設機能強化事業（社会教育課）【105,003千円】

「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」を策定し、県立博物館を文化観光の拠点施設として、若松城跡周辺の「会津のSAMURAI文化エリア」や「若松城下の商工文化エリア」、奥会津の「雪国のくらしとものづくり文化エリア」を訪れる観光客等の周遊を促進する取組を行っています。

- 若松城三の丸堀跡等の調査、まちなか連携事業、体験型プログラム、雪国ものづくりマルシェ（春、秋）、展示室の主要資料解説多言語化、ツアー造成、SNSやポスターでの情報発信等を実施【12月末現在】。

令和6年度の主な取組予定

○ 福島県文化センターの管理運営（文化振興課）【1,013,934千円】

○ ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）の管理運営（生涯学習課）【593,943千円】

○ 美術館施設整備事業（施設財産室）【22,702千円】

- 博物館施設整備事業（施設財産室）【113,668 千円】
- 文化観光拠点施設機能強化事業（社会教育課）【59,932 千円】

指標から見た施策の進捗状況

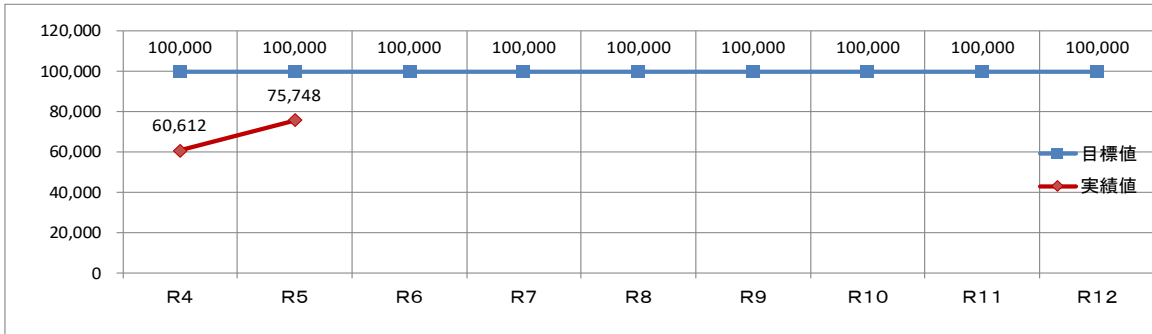
【指標の評価方法】 A:100%以上 B:99～80% C:79～70% D:69%以下

(再掲)No.4 県立美術館の入館者数 【目標値:100,000人(令和12年度)】

評価
B
(見込)

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
実績値	60,612	75,748	12月末時点						



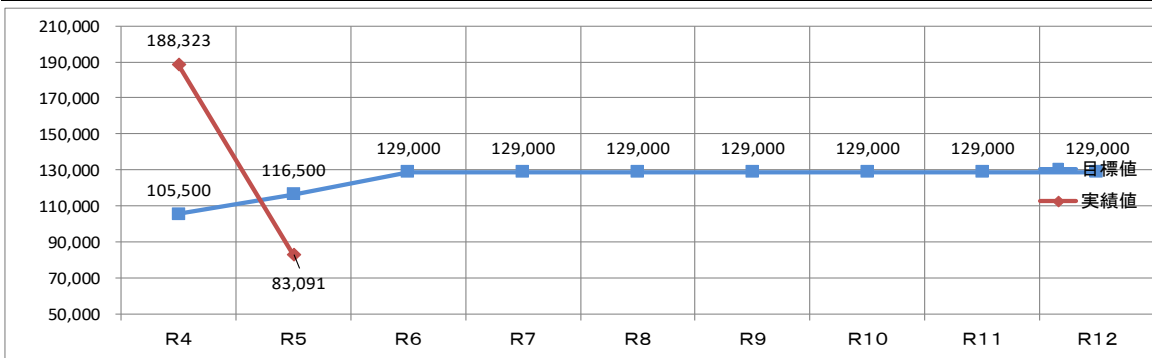
達成見込	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は、福島県にゆかりのある美術家を紹介する展覧会を中心に開催したものの海外展等の大規模企画展ほどの入館者数にはならなかった。また、新型コロナウイルス感染症の影響(団体観覧の減少等)もあり、入館者数が伸び悩み、目標達成率は60.6%であった。令和5年度は、大規模企画展を4月から8月にかけて2展実施するなど集客に努めた結果、12月末時点で目標達成率75.7%となったが、今後、1月以降の企画展や常設展を含めた入館者数見込みは81,000人強であり、目標値達成は困難な見込みである。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 来館者のアンケート結果や、他館の入館状況も踏まえ、人気の高い大型企画展や、注目度の高い自主企画展を開催する。 企画展の連動や時節に即した内容を考えながら、常設展を企画する。 新聞、テレビ、HP、SNSなどを活用し、どの年齢層にも、企画展の内容や魅力を、わかりやすく伝えるような表現で、企画展開始前から繰り返し広報する。 感染防止対策を継続するとともに、安心して来館いただける環境を維持する。そのために、美術館への要望のうち、対応できる内容については、可能な限り速やかに対応する。

(再掲)No.5 県立博物館の入館者数 【目標値:129,000人(令和12年度)】

評価
B
(見込)

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	105,500	116,500	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000	129,000
実績値	188,323	83,091	12月末時点						



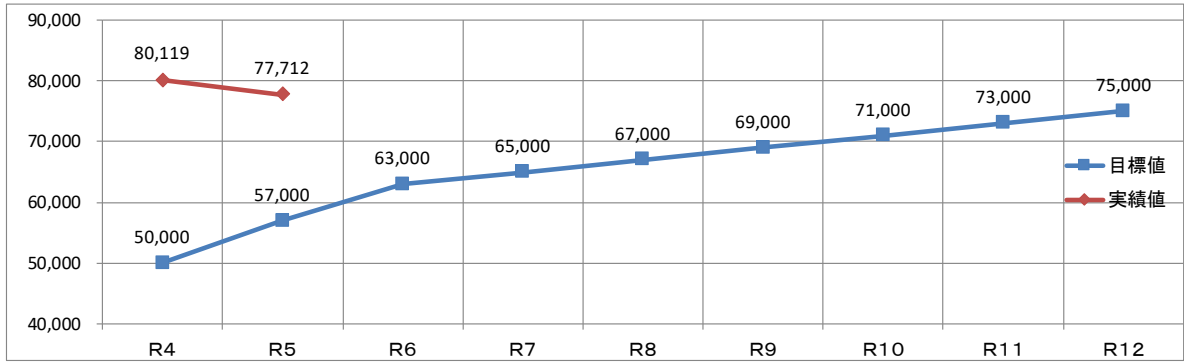
達成見込	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染法上の分類が5月8日より季節性インフルエンザと同じ5類に引き下げられ、学校団体の教育旅行等の入館者数は元に戻つつある。 博物館に求められる役割の多様化に対応するため、イベント等館内行事に加え、移動展(アウトリーチ事業)やゲストティーチャー等、幅広い活動の充実を図り、文化観光や地域の活力向上にも取り組んできた。 今年度は春の企画展「GO!GO!5世紀」、夏の企画展「仕事が仕事をしている仕事」、秋の企画展「伝える 災害の記憶」などを実施したが、比較的規模の小さな自主開催でもあり、12月末までの実績を踏まえると、年度末までの館内事業の入館者数見込みは95,000人弱であり、目標値達成は困難な見込みである。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」(R2～6年度)に基づく展示室のサイン表示・解説等の多言語化やレストコーナー整備等による施設の魅力アップなどを通じて、外国語ユーザーやリピーターの確保を図り、引き続き文化観光や地域の活力向上に取り組むとともに入館者数の増加に努めていく。

(再掲)No.6 東日本大震災・原子力災害伝承館の入館者数
【目標値：75,000人(令和12年度)】

評価
A

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	50,000	57,000	63,000	65,000	67,000	69,000	71,000	73,000	75,000
実績値	80,119	77,712	12月末時点						

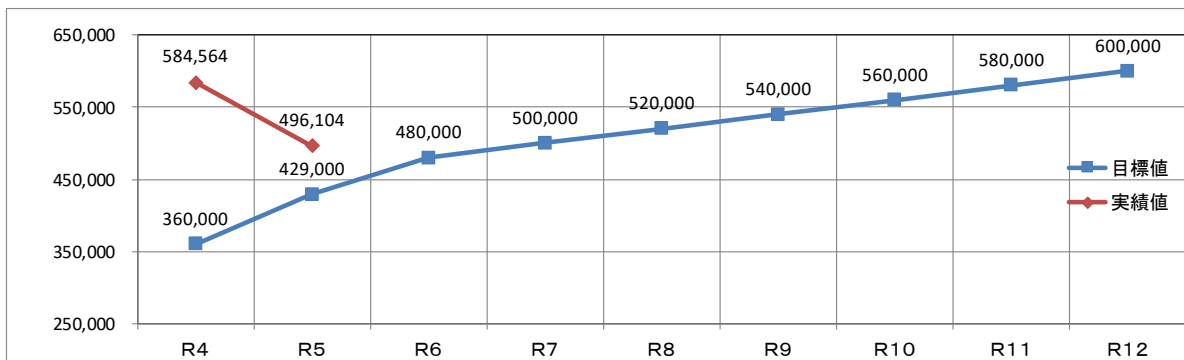


達成見込	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き県内外に広報を行い、浜通りの13施設と連携した風評の払拭につながるイベントや県外展示を実施すると共に、旅行者向けのモニターツアーを実施した。さらに、他の県内施設及び県内スポーツ団体のホーム戦観戦者に対する入館料割引の導入によるサービス向上などにより、県内外からの利用者増加に努めてきたことで令和5年度の目標値を上回るとともに、前年同月比でも上回って推移している。 ・すでに、入館者数・研修参加者数のいずれも、令和12年度の目標値を上回っており、指標の見直しが必要と考えるが、要因が新型コロナによる行動制限の解除に伴う反動によるものなのか、伝承館の集客努力によるものなのか、伝承館が新型コロナ蔓延中の令和2年度に閉館しているため増加理由の特定が困難であることから、来館者の動向や、本来の観光客入込数など多角的に解析し次年度の見直しを目指すこととしたい。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・館としての学びの魅力を維持・向上させていくため、計画的な展示内容の更新や企画展の開催、研究事業の成果を踏まえた研修プログラムを充実させていく。 ・帰還や新たな拠点整備等新しい局面を迎える被災自治体の状況を踏まえながら、被災地域全体で、震災の教訓や復興する地域の姿、魅力を発信していく。

(再掲)No.7 アクアマリンふくしまの入館者数
【目標値：600,000人(令和12年度)】

評価
A

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	360,000	429,000	480,000	500,000	520,000	540,000	560,000	580,000	600,000
実績値	584,564	496,104	12月末時点						



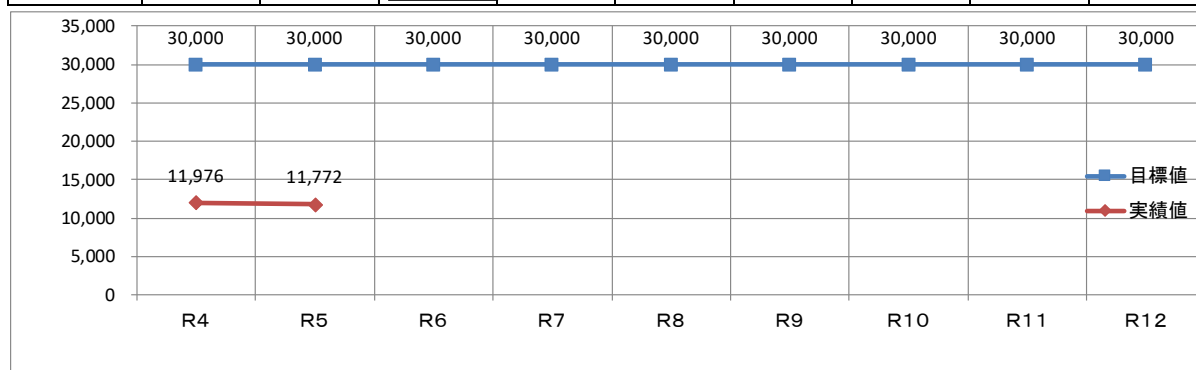
達成見込	<ul style="list-style-type: none"> ・R5年度の入館者数は、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限の反動のほか、全国ネットのテレビ番組での複数回の放送や新聞の全国紙への掲載等があり、当館の魅力を広く発信できたことにより大きく入館者数を伸ばし、既に目標を達成した。 ・スクール開催事業は、業務量が膨大なことから、R4度から実施方法や回数を見直した。内容をより魅力的なものとしたことで、受講者数も既に目標を達成した。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある企画開催事業を展開し、近隣施設と連携した情報発信を行っていく。 ・スクール開催事業は、見直し後の実施結果を踏まえ、より魅力的なものとなるようブラッシュアップしていく。

(再掲)No.8 県文化財センター白河館の入館者数
【目標値:30,000人(令和12年度)】

評価
D
(見込)

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
実績値	11,976	11,772	12月末時点						

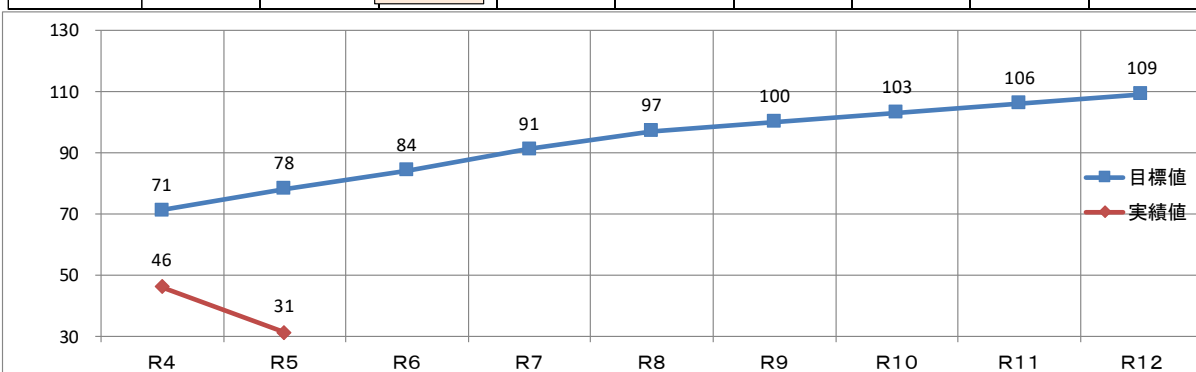


達成見込	<ul style="list-style-type: none"> 県内外の学びの類似施設(福島市:じょーもびあ宮畑、郡山市:大安場古墳)等が競合する環境になってきたことや学校におけるカリキュラムの増加(英語、情報等)等に伴い学校の利用が減少したことなどにより、入館者数が伸びず目標を下回る見込み。 令和5年度では、昨年度の1年間の入館者数とほぼ同数が、9か月間で達成されており、前年度に比して、着実に回復していると考えられる。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ、SNSを含む戦略的な情報発信や来館者ニーズの把握によるリピーターの確保、類似施設との差別化などを図りつつ、各種展示の充実と質の向上に努めていく。

(再掲)No.9 福島県文化センター利用料金免除件数
【目標値:109件(令和12年度)】

評価
D

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	71	78	84	91	97	100	103	106	109
実績値	46	31	11月末時点						



達成見込	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年3月に発生した地震により客席天井が被害を受けた大ホールが利用休止中であり、催事件数そのものが例年より少なくなっているため、これに伴い利用料金免除件数も目標を下回っている。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度から復旧工事に着手する予定である。

推進施策7 文化の交流の推進

地域やジャンルを超えた多様な文化交流を推進するとともに、東日本大震災・原子力災害の記録や教訓等を次世代に引き継ぎながら、復興の状況とともに全国に向けて発信し、交流の拡大につなげます。

- (1) 文化の発信と交流の充実
- (2) 東日本大震災・原子力災害からの復興と教訓の発信

令和5年度の主な取組

○ 教育旅行復興事業（観光交流課）【301, 677千円】

県内宿泊を伴う教育旅行を実施する県外学校に対するバス経費の一部助成を行っています。また、ホープツーリズムを核とした探究学習プログラムの磨き上げ・周知のための教育関係者向けモニターツアー、合宿関係施設の広域連携促進による受入体制の強化等を行うとともに、継続的な情報発信・営業活動を実施します。

- バス経費助成事業交付決定件数 1,235件（12月末時点）
- モニターツアー 7件実施
- 合宿関係施設の広域連携支援を実施中。

○ 【再掲】第17回声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【19, 278千円】

全国トップレベルの声楽アンサンブルグループによるコンテストを開催し、音楽文化の更なる発展を図るとともに、歌うことの楽しさや「合唱王国ふくしま」を全国に発信します。

○ 東日本大震災・原子力災害伝承館管理運営事業（生涯学習課）【410, 520千円】

複合災害の記録と教訓を後世に伝えるとともに、復興に向けて力強く進む福島県の姿やこれまで国内外からいただいた御支援に対する感謝の思いを発信するため、東日本大震災・原子力災害伝承館を運営する。（施設の維持・管理運営事業、施設修繕事業）

- 資料収集・展示
 - ◆ 1,753点の資料を収集（令和5年12月末現在）
 - ◆ 企画展示は2回実施、他県での巡回展示は3回実施
- 調査研究
 - ◆ 令和5年4月に常任研究員1名を採用
 - ◆ 令和6年3月に東日本大震災及び原子力災害の研究者を集めて学術研究集会を開催予定
- 学習機会の提供
 - ◆ 294団体12,085名が一般研修プログラムを受講し、9団体185名が常任研究員による専門講座を受講（令和5年12月末時点）

○ **東日本大震災・原子力災害伝承館学習活動支援事業（生涯学習課）【36, 847千円】**

県内外の小中高の児童・生徒が東日本大震災・原子力災害伝承館を活用して行う学習活動を支援するためにバス代への補助を行っています。

- バス補助：延べ93校、バス219台、人数7,042人（児童生徒及び引率者）
- 入館料補助：16,500人程度

○ **震災・原発の経験・教訓、復興状況伝承事業（生涯学習課）【6, 569千円】**

福島県の子どもたちが、県内で復興・再生に邁進している団体等に対して取材を行い、震災の経験や教訓、復興に向けての取組を学び、ふるさとの良さや未来について考え、自分の言葉で新聞にまとめ、発信することにより、ふるさとへの愛着心を育むとともに、ふくしまの復興を広く国内外に発信します。

- ジャーナリストスクールの開催
- 開催日：令和5年8月3日（木）開校式・取材、5日（土）～6日（日）新聞作成
令和5年8月12日（土）発表会・閉校式
- 場所：東日本大震災・原子力災害伝承館、相双地区他、郡山自然の家、
郡山市立中央公民館
- 受講生 県内の小学5年生～高校生 38名
- 発表会参観者 124名、特別講師 池上彰氏

○ **次世代へつなぐ震災伝承事業（生涯学習課）【11, 419千円】**

次世代への震災の記憶と教訓の伝承を図るため、語り部団体等のネットワーク化や人材育成、県外等への語り部派遣を行うことで、語り部等の持続的な活動の仕組みづくりに取り組んでいます。

- ネットワーク化・レベルアップ
 - ◆ 東日本大震災・原子力災害ふくしま語り部ネットワーク会議を2回開催（6月、2月）
 - ◆ 先進事例調査として、水俣病への対応について11月に熊本県を訪問
 - ◆ ふくしま震災伝承者交流会を11月に富岡町で開催し、58人が参加
- 人材育成
 - ◆ 伝承者育成検討プロジェクトチーム会議を3回開催（6月、9月、1月）
 - ◆ 伝承者育成講座を3回開催（延べ受講者数13人）
- 県外への語り部派遣
 - ◆ 19件派遣（東北7、関東9、四国1、九州2）

○ **震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業（高校教育課）【18, 162千円】**

震災と復興に関する地域課題探究活動を通して、福島における震災、復興、未来について、自分の考えを持ち、自分の言葉で語ることのできる高校生を育成に取り組んでいます。この過程で思考力、判断力、表現力等を育成するとともに、県内外の高校生等との交流を通して震災に関わる風化防止、風評払拭につなげています。

- 実践校を17校指定。各校とも計画に基づき展開中。
- 伝承館研修校を17校指定。各校とも計画に基づき展開中。
- 小中高の若手教員を対象に教員研修を実施。

○ **ホープツーリズム運営・基盤整備事業（観光交流課）【173, 865千円】**

ホープツーリズムの関連コンテンツ、モデルコース等の最新情報を整理・集積した総合窓口及びサポートセンターの整備・運営・情報発信を行うとともに、企業等の人材育成研修プログラムの造成、企業関係者を対象としたモニターツアーによる検証・磨き上げ、一般観光客向けの旅行商品造成支援等の実施により、ホープツーリズムのさらなる深化・拡大を図っています。

- ホープツーリズムサポートセンターを開設し、受入環境を強化
- 旅行会社による一般観光客向けの旅行商品造成を支援
- ホープツーリズムのモニターツアーとして、教育旅行関係者対象、企業研修者対象、メディア対象、インフルエンサー対象の4種類のツアーを実施予定。

○ **ホープツーリズム拡充等浜通り観光支援事業（観光交流課）【232, 623千円】**

教育旅行や企業研修といった従来の団体向けホープツーリズムとは異なり、一般観光をフックとした新たな個人向けホープツーリズムや、ブルー・ツーリズムによる誘客を目指すことにより、浜通りにおける関係人口の拡大と観光需要の獲得を図っています。

- ホープツーリズム拡大推進事業
 - ◆ 年間を通じてサイクリストの受入環境を整備
 - ◆ ワークーションキャンペーンを実施（利用者数500名）
 - ◆ 伝承館を中心とした無料周遊バスを運行（2日間で延べ130名の利用）
 - ◆ 東京六本木にて浜通り観光交流フェスティバルを開催（2日間で9,000名の来場）
- ホープツーリズム・インバウンド誘客事業
 - ◆ 多言語ガイドブック作成
 - ◆ 海外のインフルエンサー招請ツアーを実施。
- ふくしま浜通りブルー・ツーリズム推進事業
 - ◆ 公式 Instagram において浜通りの観光スポット等を紹介する投稿を15投稿行い、フォロワーが300名以上増加
 - ◆ 浜通りフォトコンテストを開催（応募総数は約400投稿）
 - ◆ インフルエンサーツアーを2回実施

令和6年度の主な取組予定

- 教育旅行復興事業（観光交流課）【297,676 千円】
- [再掲] 第18回声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【19,198 千円】
- 東京2025デフリンピック関連復興推進事業（スポーツ課）【32,545 千円】
- 東日本大震災・原子力災害伝承館管理運営事業（生涯学習課）【446,759 千円】
- 震災・原発の経験・教訓、復興状況伝承事業（生涯学習課）【7,030 千円】
- 東日本大震災・原子力災害伝承館学習活動支援事業（生涯学習課）【37,129 千円】
- 次世代へつなぐ震災伝承事業（生涯学習課）【19,993 千円】
- 震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業（高校教育課）【18,162 千円】
- ホープツーリズム運営・基盤整備事業（観光交流課）【217,932 千円】
- ホープツーリズム拡充等浜通り観光支援事業（観光交流課）【166,623 千円】
- Jヴィレッジから広める福島安全安心PR事業（エネルギー課）【21,042 千円】

指標から見た施策の進捗状況

【指標の評価方法】 A:100%以上 B:99~80% C:79~70% D:69%以下

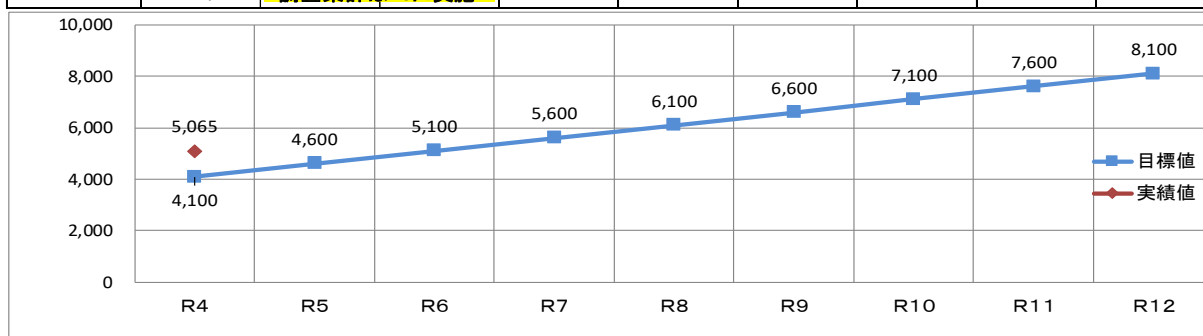
No.19 福島県教育旅行学校数 【目標値：8,100校（令和12年度）】

評価

—

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	4,100	4,600	5,100	5,600	6,100	6,600	7,100	7,600	8,100
実績値	5,065	調査集計はR6に実施							



令和3年度と
令和4年度の
比較

・令和4年度の学校数(5,065校)は、依然として新型コロナウイルス感染症の影響が残ったものの、近隣県や首都圏からの入込数の回復や、近畿地方など遠方からの来県の増加などもあり、順調に回復している。
※令和5年度の学校数については来年度調査予定。(令和6年10月頃判明見込)

今後の取組

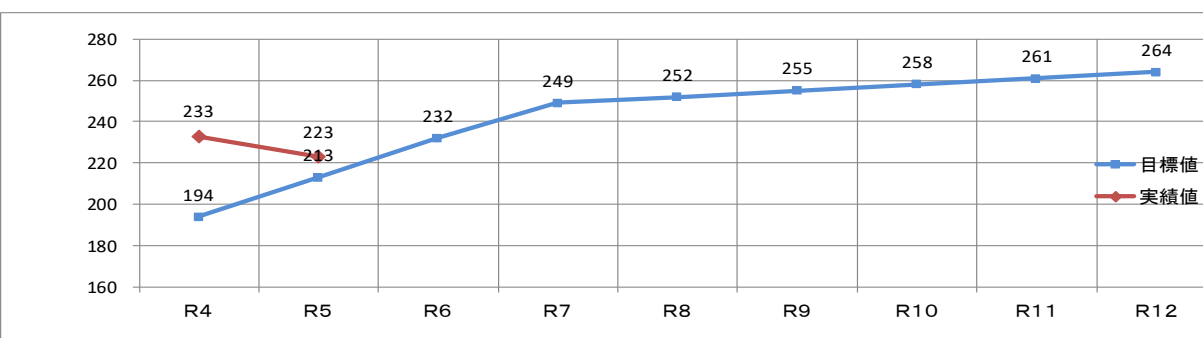
・教育旅行先を本県とする北関東圏の学校が増加していることを踏まえ、ターゲットを絞って営業活動を行っていく。
・探究型プログラムを充実させ、教育旅行の多様なニーズに応えられる体制を整える。
・過年度のバス助成実績データの分析によりターゲットを明確にし、バス助成事業を活用した営業活動を継続して実施する。

No.20 声楽アンサンブルコンテスト全国大会の推薦及び公募団体数 【目標値：264団体以上（令和12年度）】

評価

A

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	194	213	232	249	252	255	258	261	264
実績値	233	223	1月末時点						



達成見込

・全国の合唱連盟への継続したPRや、R3年度から開設したX(旧Twitter)を活用した広報(フォロワーはR6年1月末時点で1,500人超)など周知に努め、全国大会として認識が定着するなどの結果、過去最多となる41府県からの推薦団体の申し込みがあり、目標を上回った。

今後の取組

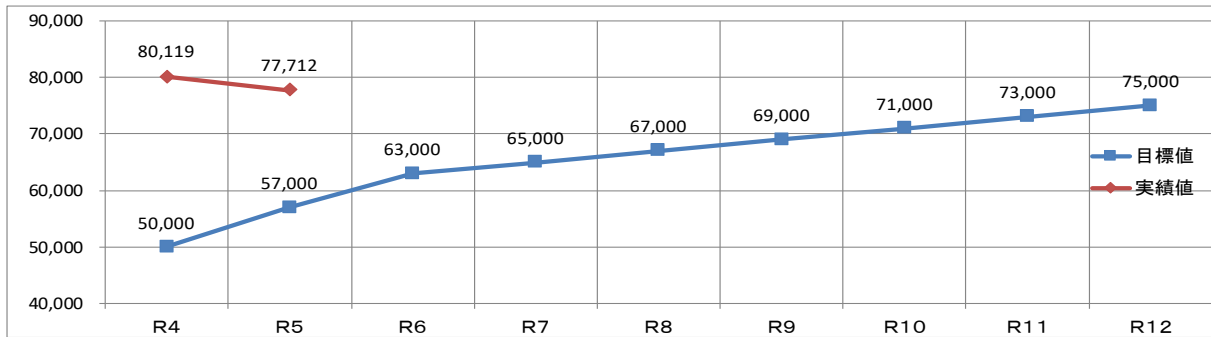
・R12年度の目標達成に向けて、出場団体数を増やしていくための運営の見直しや工夫について関係者と検討・協議を進め、申し込み団体数の増加に努めていく。

(再掲)No.6 東日本大震災・原子力災害伝承館の入館者数
【目標値:75,000人(令和12年度)】

評価
A

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	50,000	57,000	63,000	65,000	67,000	69,000	71,000	73,000	75,000
実績値	80,119	77,712	12月末時点						



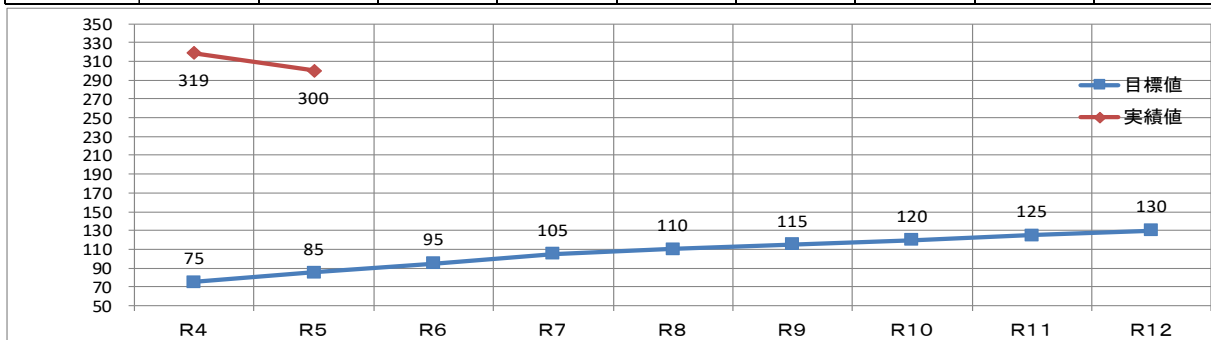
達成見込	<p>・昨年度に引き続き県内外に広報を行い、浜通りの13施設と連携した風評の払拭につながるイベントや県外展示を実施すると共に、旅行業者向けのモニターツアーを実施した。さらに、他の県内施設及び県内スポーツ団体のホーム戦観戦者に対する入館料割引の導入によるサービス向上などにより、県内外からの利用者増加に努めてきたことで令和5年度の目標値を上回るとともに、前年同月比でも上回って推移している。</p> <p>・すでに、入館者数・研修参加者数のいずれも、令和12年度の目標値を上回っており、指標の見直しが必要と考えるが、要因が新型コロナによる行動制限の解除に伴う反動によるものなのか、伝承館の集客努力によるものなのか、伝承館が新型コロナ蔓延中の令和2年度に開館しているため増加理由の特定が困難であることから、来館者の動向や、本来の観光客入込数など多角的に解析し次年度の見直しを目指すこととした。</p>
今後の取組	<p>・館としての学びの魅力を維持・向上させていくため、計画的な展示内容の更新や企画展の開催、研究事業の成果を踏まえた研修プログラムを充実させていく。</p> <p>・帰還や新たな拠点整備等新しい局面を迎える被災自治体の状況を踏まえながら、被災地域全体で、震災の教訓や復興する地域の姿、魅力を発信していく。</p>

No.21 ホープツーリズム催行件数
【目標値:130件(令和12年度)】

評価
A

※県総合計画指標

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	75	85	95	105	110	115	120	125	130
実績値	319	300	12月末時点						



達成見込	<p>・令和2年9月に開館した東日本大震災・原子力災害伝承館の見学を中心とした伝承館プログラムの依頼が増加したことに加え、R3秋以降のコロナ禍による教育旅行の行き先変更や、本県でしか得られない新しい学びのスタイルが評価されたこと等により、令和4年度は目標を大幅に上回った。令和5年度も、目標値以上の件数が見込まれる。</p>
今後の取組	<p>・伝承館プログラムの対応ができるフィールドパートナーの人材育成を行い、その中から、更に1泊2日のホープツーリズムに対応できるフィールドパートナーの人材育成を行う。</p> <p>・一般観光客向けホープツーリズムに対しては、一般向け旅行商品を造成する旅行会社を支援するとともに、ホームページやWEB広告を活用した情報発信を積極的に実施する。</p> <p>・企業研修版ホープツーリズムの顧客獲得に向けて、プログラムの造成・検証を行い、PR動画を活用した営業を行う。</p>

※ホープツーリズム: 複合災害の教訓等から持続可能な社会・地域づくりを学ぶツアー□
 ※フィールドパートナー: ツアー中のアテンドや学びを支援する方(教育旅行を担当)
 ※ホープツーリズムガイド: 一般観光客向けのガイド

推進施策8 文化振興による地域づくり

地域の祭りや伝統行事、歴史的な建造物など多様な資源の文化的価値をいかして、地域コミュニティの維持・強化や、産業、観光等の様々な分野との連携による魅力づくりなどの地域活性化に取り組みます。

(1) 文化資源をいかした産業等の振興・地域づくり

令和5年度の主な取組

○ 地域創生総合支援事業（地域振興課）【837,751千円】

住民主体の個性と魅力にあふれる地域づくりを推進するため、民間団体や市町村等が実施する地域活性化の取組を支援するとともに、地方振興局等が地域課題に機動的かつ柔軟に対応するため、地域の実情に応じて事業を企画・実施します。

■ サポート事業（採択件数）274件（①一般枠 136件、②市町村枠 61件、③過疎・中山間地域活性化枠（集落等活性化事業 17件、スタートアップ支援事業（収益事業）7件、集落ネットワーク圏形成事業 3件））

■ 県戦略事業（実施件数）40件（①地域経営事業 15件、過疎中山間地域振興事業 12件、地域連携調整事業 13件）

◆ サポート事業

地元ゆかりの作曲家の楽曲やアーティストの演奏による音楽祭、会津型や出ヶ原和紙など地域の伝統文化の他県プログラム、文化資源をウェブで公開するデジタルミュージアムの構築など、文化資源を活用した地域づくりも支援している。

○ 文化財等を活用した誘客促進事業（観光交流課）【30,000千円】

文化財をはじめとした地域資源を観光素材とし、観光地としての魅力を高めるため、観光協会等に専門家を派遣し、中・長期的な戦略策定や旅行商品の磨き上げ等の支援を行うとともに、得られた収益を地域に還元できる仕組み作りを実施することで、自立的な地域観光を構築します。

■ 公募で支援団体を6団体選定し、専門家による伴走支援をとおした、地域の文化財を観光素材として活用したコンテンツの造成・磨き上げ等支援を実施中。10～11月の期間中、各支援団体がイベントや体験プログラム等を開催した。引き続き、コンテンツの磨き上げや運営体制の強化等に向けた伴走支援を実施していく。

○ 観光地域づくり総合推進事業（観光交流課）【140,384千円】

地域の観光コンテンツの造成、磨き上げ、流通までの一連をサポートし、将来的な地域自走の一助とする。また、ふくしま応援ポケモンを活用した地域振興施策を展開し、地域と協働して誘客を図るほか、発酵文化をテーマとした発酵ツーリズム等の推進により多角的な誘客を図ります。

● ふくしま発酵ツーリズム推進事業

- モデル・女優の松井愛莉さんを「美を醸すふくしまPR大使」に任命しPR動画やリーフレット、イベントでの起用を行った。
- Instagramを中心としたSNSを週2回程度更新し情報発信を展開中。
- インフルエンサーを招請し発酵旅に関する情報発信を実施。
- 発酵に関するコンテンツの商品化を実施。

● 人気キャラクターを活用したふくしまスマイル事業

■ ラッキーグリーティング開催 5回

県内の花の名所において、ラッキーと一緒に写真撮影ができるグリーティングを実施。

■ ラッキーと桃(も)っとキャンペーン開催 (7/21(土)～8/27(日))

県内果樹園や飲食店において、桃狩りや桃メニューを注文したお客様へオリジナルノベルティを配布したほか、ラッキーフォトコンテストを実施。

■ ラッキーマルシェ with ポケモンローカル Acts 開催 (1/13(土)～2/25(日))

道の駅なみえにおいて、全国の推しポケモンとのご当地コラボ商品を販売する他、グリーティングの開催やコラボドリンクの販売を実施中。”

○ 福島ゆかりのコンテンツによる地域活力創造事業（地域政策課）【53,095千円】

本県ゆかりの特撮等のコンテンツを地域の宝として見直す機運を醸成し、これらを有効に活用しながら交流人口の拡大や福島県全域の活力創出を図るとともに、市町村や関係団体と連携して、地域経済の活性化を目指します。

- ウルトラマン：「ウルトラふくしま2023」スタンプラリーを開催、コラボメニューの開発
- リカちゃん：ご当地リカちゃん制作、SNSや百貨店催事による福島PR、コラボグッズ制作による県産品PR
- 特撮：雲を綿で作ろうワークショップ、特撮検定（オンライン形式の特撮クイズ）等を実施

○ 「歳時記の郷・奥会津」活性化事業（地域振興課）【196,476千円】

「自然のなかに暮らすいとなみ、100年先のみらいへ」を基本理念として、本県を代表する水力発電地域である只見川流域7町村が実施する地域振興を支援しています。

- 只見川流域7町村で構成する只見川電源流域振興協議会が行う只見川流域の振興に資するソフト事業1事業と各構成町村が行うハード事業4事業の計5事業を支援した。

① 「歳時記の郷・奥会津」活性化事業（只見川電源流域振興協議会）

- ・ 奥会津地域全体を博物館と見立てる奥会津ミュージアム事業（企画展の開催、デジタルアーカイブシステムの運用、WEB上でのコラム発信等）を実施している。

- ② 会津地鶏食鳥処理場機能強化事業（三島町）
- ③ 中丸城跡登山道整備事業（金山町）
- ④ 旧伊南小学校跡地利用（大イチョウ公園整備）事業（南会津町）
- ⑤ 中土合公園改修事業（檜枝岐村）

○ **奥会津地域活性化推進事業（まちづくり推進課）【32,000千円】**

奥会津地域において、只見線やその沿線の豊かな自然景観、地域観光と土木構造物を連携したインフラツアーを定着させ、奥会津地域の活性化（交流人口の拡大）を図ります。

- インフラツアーの定着に向けたモデルツアーの開催や、歩く県道（道普請）の活用に向けた実証実験等を実施している。

○ **〔再掲〕「地域のたから」民俗芸能総合支援事業（文化振興課）【20,329千円】**

● 民俗芸能公演事業

民俗芸能の継承を図るため、「ふるさとの祭り」を開催し、震災等の影響により、公演の機会のない民俗芸能団体を中心に芸能披露の場を提供しております。

● 民俗芸能復興サポート事業

専門家との連携により、芸能団体の活動再開から継続、担い手の育成まで、各団体の実情に応じた総合的、一体的な支援を行っています。

○ **〔再掲〕文化財保存活用地域計画策定支援（文化財課）【予算なし】**

文化財保存活用地域計画の策定を進める市町村に全国的な先行事例の紹介や災害発生時の文化財救援活動の手順、文化財の防災・減災のための調査の実施方法、文化財浸水ハザードマップの作成方法などについて、指導助言・支援を行っています。

○ **〔再掲〕第17回声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【19,278千円】**

全国トップレベルの声楽アンサンブルグループによるコンテストを開催し、音楽文化の更なる発展を図るとともに、歌うことの楽しさや「合唱王国ふくしま」を全国に発信します。

令和6年度の主な取組予定

- 地域創生総合支援事業（地域振興課）【829,503千円】
- 「歳時記の郷・奥会津」活性化事業（地域振興課）【200,197千円】
- 観光地域づくり総合推進事業（観光交流課）【106,278千円】
- 福島ゆかりのコンテンツによる地域活力創造事業（地域振興課）【36,962千円】
- 〔再掲〕「地域のたから」民俗芸能総合支援事業（文化振興課）【20,546千円】
- 〔再掲〕文化財保存活用地域計画策定支援（文化財課）【予算なし】
- 〔再掲〕第18回声楽アンサンブルコンテスト全国大会（文化振興課）【19,198千円】

指標から見た施策の進捗状況

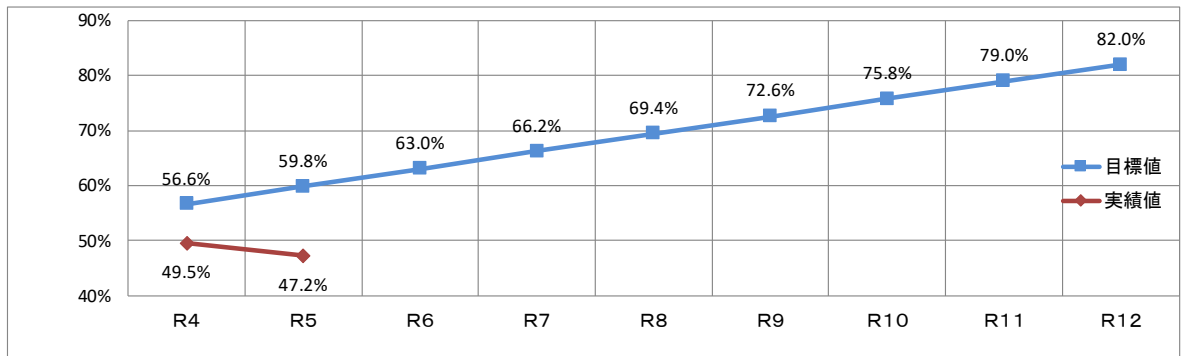
【指標の評価方法】 A:100%以上 B:99~80% C:79~70% D:69%以下

(再掲)No.17 本県の豊かな自然や美しい景観が保全され、野生鳥獣との共生が図られていると回答した県民の割合【目標値:82.0%以上(令和12年度)】

評価
C

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	56.6%	59.8%	63.0%	66.2%	69.4%	72.6%	75.8%	79.0%	82.0%
実績値	49.5%	47.2%							



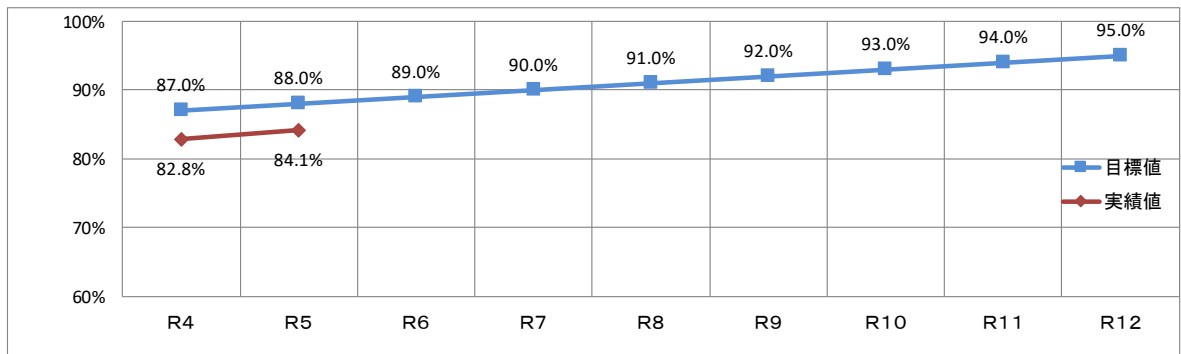
達成見込	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然や美しい景観を文化的な資源として活用することで、県民がその価値を再認識して保全の推進にも繋げるよう取組を進めてきたところだが、前年度より指標が低下しており、目標達成のためには更なる取組の強化が必要である。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化財や歴史的な建造物、街並み、美しい景観などを、文化的価値のある資源として活用していくため、観光や産業との連携を促進していく。

(再掲)No.18 自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと回答した県民の割合【目標値:95.0%以上(令和12年度)】

評価
B

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	87.0%	88.0%	89.0%	90.0%	91.0%	92.0%	93.0%	94.0%	95.0%
実績値	82.8%	84.1%							



達成見込	<ul style="list-style-type: none"> ・8割以上の県民が自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと回答しており、伝統を継承していく重要性は多くの県民に認識されており、概ね目標を達成した。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの県民に伝統文化の重要性を再認識してもらうため、地域に伝わる民俗芸能の継承や再開の支援、発表の機会の確保に引き続き努めていく。 ・文化財を含めた伝統文化を地域のたからとして継承しつづけていくために、文化財保存活用地域計画の作成支援や、観光など地域で様々な形で活用し、その価値や役割を高めていく。

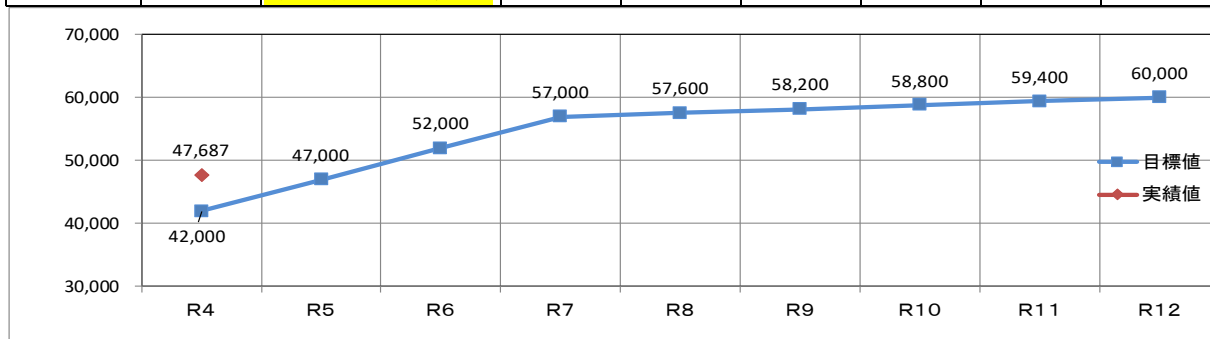
No.22 観光客入込数
【目標値：60,000千人(令和12年)】

評価
—

※県総合計画指標

(単位:千人)

年	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	42,000	47,000	52,000	57,000	57,600	58,200	58,800	59,400	60,000
実績値	47,687	調査集計はR6に実施							



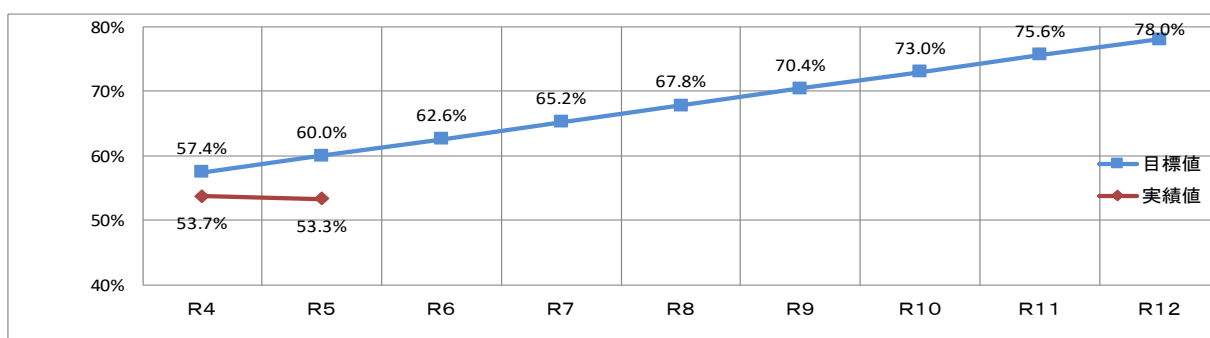
令和3年度と令和4年度の比較	<p>・R4指標については、対前年比で12,233千人増(+34.5%)の47,687千人の実績となった。新型コロナウイルスの影響で大幅に落ち込んだ観光客入込は、全国旅行支援の実施や、緊急事態宣言等がなかったことにより、前年と比較して入込数が増加した。 ※R5指標については4月に速報値公表となる見込み。</p>
今後の取組	<p>・安定的で継続的な観光需要を獲得するには、「地域としての魅力」によりファンを獲得する必要がある、中長期的な視点を持って地域の観光を育てる必要がある。そのため県内各地域の関連団体等に対し、人材確保や観光コンテンツの掘り起こし・磨き上げなどのフォローアップを実現し、将来、地域が主体となって観光づくりを進めていけるよう支援する。</p>

No.23 国内外の友人・知人に対して、自信を持って紹介できる地元のもの(自然、特産品、観光、文化など)があると回答した県民の割合
【目標値：78.0%以上(令和12年度)】

評価
B

※県総合計画指標(県政世論調査による意識調査項目)

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
目標値	57.4%	60.0%	62.6%	65.2%	67.8%	70.4%	73.0%	75.6%	78.0%
実績値	53.7%	53.3%							



達成見込	<p>・県内各地の風土に培われた地域の民俗芸能、合唱王国福島に代表される芸術文化、食や美しい自然・伝統工芸など福島の魅力の発信を通じて、県民が多様な文化資源を地域の宝として再認識することで、地域への誇りや愛着を育み、概ね目標値を達成した。</p>
今後の取組	<p>・地域のまつりや民俗芸能など伝統文化の継承や発展、地域の文化財の保存や活用促進、芸術文化の発表や鑑賞機会の確保などに努め、地域への誇りや愛着を高める取組みを進めていきます。</p>